

# 4 同人第 3 号

## 井手町宮住宅北団地 2 号棟、南団地 2 号棟耐震補強工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
D-01	表紙・図面リスト	D-21	南団地 2 号棟 現況平面図	S-01	構造特記仕様書	E-01	電気設備工事特記仕様書-1
D-02	建築工事特記仕様書-1	D-22	同上 現況立面図・断面図	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	E-02	電気設備工事特記仕様書-2
D-03	建築工事特記仕様書-2	D-23	同上 改修平面図	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	E-03	北団地 2 号棟 外灯設備図(改修)
D-04	建築工事特記仕様書-3	D-24	同上 改修立面図・断面図	S-04	北団地 2 号棟 ソイルセメント併用羽根付き鋼管杭 回転埋込み工法 特記仕様書	E-04	同上 外灯設備図(現況・撤去)
D-05	建築工事特記仕様書-4	D-25	同上 現況・撤去詳細図	S-05	同上 現況・撤去伏図	E-05	同上 動力幹線・電灯設備図
D-06	建築工事特記仕様書-5	D-26	同上 改修詳細図	S-06	同上 現況・撤去軸組図	E-06	同上 弱電・集中検針設備図
D-07	建築工事特記仕様書-6			S-07	同上 PCa外フレーム工事特記仕様書	E-07	同上 TV共視聴設備図
D-08	建築工事特記仕様書-7			S-08	同上 PCa外フレーム平面配置図・軸組図	E-08	南団地 2 号棟 TV共視聴設備図
D-09	附近見取図			S-09	同上 PCa外フレーム断面リスト		
D-10	改修仕上表			S-10	同上 PCa外フレーム架構図		
D-11	北団地 2 号棟 配置図・仮設計画図			S-11	同上 アンカー配置要領図・各部配筋要領図	M-01	機械設備工事特記仕様書-1
D-12	同上 現況平面図			S-12	南団地 2 号棟 現況・撤去伏図	M-02	機械設備工事特記仕様書-2
D-13	同上 現況立面図・断面図			S-13	同上 現況・撤去軸組図	M-03	北団地 2 号棟 衛生設備 配置図及び現況屋外配管図
D-14	同上 改修平面図			S-14	同上 改修伏図・軸組図	M-04	同上 衛生設備 現況・撤去・改修平面図
D-15	同上 改修立面図・断面図			S-15	同上 補強詳細図	M-05	同上 衛生設備 現況・撤去・改修平面・立面図
D-16	同上 現況・撤去詳細図						
D-17	同上 改修詳細図						
D-18	同上 屋外 撤去・改修詳細図						
D-19	同上 仮設駐車場整備図						
D-20	南団地 2 号棟 配置図・仮設計画図						



建築改修工事特記仕様書

【1】 工事概要

1. 工事場所 北団地2号棟 京都府綴喜郡井手町大字井手小学段ノ下2番地
南2団地号棟 京都府綴喜郡井手町大字井手小学段ノ下56番地

2. 敷地面積 m<sup>2</sup>

Table with 6 columns: 棟名, 構造, 階数, 建築面積(m<sup>2</sup>), 延べ面積(m<sup>2</sup>), 備考. Rows include 北団地2号棟 and 南団地2号棟.

4. その他

【2】 適用範囲

現場説明書(質疑回答書を含む)、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。
すべての設計図書は相互に補充するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。

【3】 工事区分

設計図書による。別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工事仕様

- 1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修仕様」のほか別記の適用基準による。
2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。
4. 項目及び特記事項に記載の( )内表示番号は「改修仕様」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

Main specification table with columns: 章項目, 特記事項. Includes sections for ① 適用基準等, ② 建築材料等, ③ 特別な材料の工法.

Table with 2 columns: 章項目, 特記事項. Lists items 4 through 11.

Table with 2 columns: 特記事項, 事項. Contains detailed technical notes for items 4 through 11, including wind speed, construction methods, and safety measures.

Table with 2 columns: 章項目, 特記事項. Lists items 15 through 20.

Table with 2 columns: 特記事項, 事項. Contains detailed technical notes for items 15 through 20, including inspection methods, skill requirements, and material testing.

Table with 2 columns: 章項目, 特記事項. Lists items 3 through 8.

Table with 2 columns: 特記事項, 事項. Contains detailed technical notes for items 3 through 8, including construction methods, material specifications, and safety measures.

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
2) 土・鉄筋・コンクリート工事	⑧ 骨材 (6.3.3)	粗骨材 ※砂利(JIS A5308)、砕石(JIS A5005) ○電気炉酸化スラグ ○再生骨材H 細骨材 ※砂(JIS A5308)、砕砂(JIS A5005) ○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○鋼スラグ ○珪石スラグ ○再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※A(無害) ○	3 防水改修工事	アスファルトの種類 ※3種 アスファルトルーフィング ※1500 ○ ○粘着層付アスファルトルーフィング 厚さ(mm) ○ 種別 ※非露出複層防水層R種 ○ ○改質アスファルトルーフィングシート 厚さ(mm) ○ 種別 ※露出単層防水用R種 ○	3 防水改修工事	4 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)	種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P O X 工 法 ※ X-1 表3.6.1 ○ L 4 X 工 法 ※ X-2
	⑨ 混和材料 (6.3.5)	混和剤 ※AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤の1種(JIS A6204) 混和材 ※フライアッシュ(JIS A6201) I 種又はII種		断熱材(保護防水断熱工法) 厚さ(mm) ○ 材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bのスキン層付(ただし、特定フロンを含まないものとする。) 断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) ○ 材質 ※ルーフィング類製造所の仕様による		5 漏水試験	種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○
	⑩ 構造体強度補正值 (6.4.5)	※気温による構造体強度補正值(S) (表6.4.1) 予想平均気温(°C) 補正值 期 間 (打 設 日) 普通 早強 (T) 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 3/6 ~ 6/30 3/11 ~ 7/20 3/11 ~ 7/10 N/mm2 9/11 ~ 11/15 9/1 ~ 11/5 9/1 ~ 10/31 0以上 0以上 6 11/16 ~ 3/5 11/6 ~ 3/10 11/1 ~ 3/10 8未満 5未満 N/mm2		断熱材(露出防水断熱工法) 厚さ(mm) ○ 材質 ※ルーフィング類製造所の仕様による		6 保証書	保護層 ○ 設ける ○ 設けない ※ 水張り試験を行う (○屋内 ○屋外)
	11 暑中におけるコンクリートの扱い (6.8.2)	※暑中における構造体強度補正值(S) 地 域 日平均気温が25度を超える期間(打設日) 補 正 値 北 部 地 域 7月11日~8月31日 ※6N/mm2 中 部 地 域 7月21日~8月31日 ○3N/mm2 南 部 地 域 7月1日~9月10日		絶縁用シート ※ポリエチレンフィルム厚0.15(保護防水工法) ※フラットヤーンクロス(70g/m程度)(保護防水断熱工法) ○		7 施工確認	工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 ※真鍮製エッチング仕上150×100 ○ 設置数量 ( ) 箇所
	12 寒中コンクリート	※予想平均気温が表6.4.1に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第12節(寒中コンクリート)による。		押え金物 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 立上がり部 保護コンクリート ○適用する( ) ○適用しない ※ レンガ押え(JIS) ○コンクリート押え ○砂利押え ○乾式保護材( )		⑧ シーリング (3.7.2) ~ (3.7.8)	シーリング材の種類 ※改修標仕表3.7.11による シーリング改修工法及び施工箇所 改 修 工 法 の 種 別 施 工 箇 所 ○ シーリング充填工法 ○ シーリング再充填工法 ○ 拡張シーリング再充填工法 ○ プリッジ工法
13 コンクリートの試験 (6.10.2) ~ (6.10.6)	※フレッシュコンクリートの試験 ※コンクリートの強度試験 ○材料試験 レディーミクストコンクリート施工の品質管理 ※スランプ試験、圧縮強度試験、空気量測定については、少なくとも一回以上、監督職員立会の上、実施しなければならない。ただし、やむを得ない場合は監督職員の承認を受けた上で、請負者のみで実施してもよい。	○露出防水密着工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 4 A S 工 法 ○ AS-1 ○ AS-2 表3.4.1 ○ AS-3	3 防水改修工事	⑨ とい(雨水) (3.8.2) ~ (3.8.3)	目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ ガラス回りの目地 ※幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ その他の目地 ※幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ シーリングの試験 ※簡易接着性試験 (部位 ) ○引張接着性試験 (部位 )		
14 コンクリートミサ車の過積載防止対策等	請負者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる集計表を検査時に提出しなければならない。	○露出防水絶縁工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6		○内とい(VP管は使用しない) 材 質 そ の 他 たてとい及び横走り管 ※SGP 径 75mm とい受け金物 ※亜鉛メッキ鋼板 防露巻き ※改修標仕表3.8.3による ※F☆☆☆☆			
15 軽量コンクリート (6.11.1)	種別 ○1種 ○2種 施工箇所	○露出防水断熱断熱工法 厚さ(mm) ○ 材質 ※改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○カ- ( ) ○シバ- 脱気装置 ※設ける 材種 ( ) 設置数量(1箇所/ m) 防湿層 ○設ける ○設けない 改質アスファルトシート下地に部分的に溶着又は接着させる場合 ○施工法 ( )		○内とい(VP管は使用しない) 材 質 そ の 他 たてとい及び横走り管 ※SGP 径 75mm とい受け金物 ※亜鉛メッキ鋼板 防露巻き ※改修標仕表3.8.3による ※F☆☆☆☆			
3 防水改修工事	1 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○保護防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6		○内とい(VP管は使用しない) 材 質 そ の 他 たてとい及び横走り管 ※SGP 径 75mm とい受け金物 ※亜鉛メッキ鋼板 防露巻き ※改修標仕表3.8.3による ※F☆☆☆☆			
		2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)		○露出防水断熱断熱工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 1 工 法 ○ ASI-1 表3.4.3 ○ M 4 A S 1 工 法 ○ ASI-2 ○ P O A S 1 工 法	○内とい(VP管は使用しない) 材 質 そ の 他 たてとい及び横走り管 ※SGP 径 75mm とい受け金物 ※亜鉛メッキ鋼板 防露巻き ※改修標仕表3.8.3による ※F☆☆☆☆		
		3 合成高分子ルーフィングシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	断熱材(露出防水断熱断熱工法) 厚さ(mm) ○ 材質 ※改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○カ- ( ) ○シバ- 脱気装置 ※設ける 材種 ( ) 設置数量(1箇所/ m) 防湿層 ○設ける ○設けない 改質アスファルトシート下地に部分的に溶着又は接着させる場合 ○施工法 ( )	⑩ アルミニウム製 笠木 (3.9.2) ~ (3.9.3)	※ 掃除口を設ける(開放性のある自転車置き場のといを除く) ○養生鉄管を設ける ( 径 厚さ 長さ ) ●既存といの撤去及び養生 ( 図示 ) ○鋼管製といの防露巻 ( ※表3.8.4 ○ ) ●たてとい受け金物 ( ※亜鉛メッキ鋼板 )		
			断熱材(露出防水断熱断熱工法) 厚さ(mm) ○ 材質 ※改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ 仕上げ塗料 ○カ- ( ) ○シバ- 脱気装置 ※設ける 材種 ( ) 設置数量(1箇所/ m) ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定めること。		※ 建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定めること。		
			断熱材 ○用いる (厚さ(mm) 種類 ) PCコンクリート部材下地の場合の目地処理 ○ 絶縁用シート ※発泡ポリエチレンシート ○ 仕上げ塗料 ○カ- ( ) ○シバ- 脱気装置 ※設ける 材種 ( ) 設置数量(1箇所/ m) ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定めること。				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 類 板厚(mm) 表面処理 固定間隔 備 考 ● 250 形 1.6 ● A-1種(無着色) ※1.3 m程度 隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。 ○ 300 形 1.8 ○ A-2種(着色) ○ ○ 350 形 2.0 ○ B-1種 ○ ○ B-2種 ○ 曲げ材 ※2.0 ○ ○ ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 Y 工 法 ※ Y-2 表3.6.2 ○ P 2 Y 工 法 ○				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ M 3 A S 工 法 ○ AS-4 ○ AS-5 表3.4.2 ○ P O A S 工 法 ○ AS-6				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ P O S 1 工 法 ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ S 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 工 法 ○ S (1) -F1 (t- ※1.2 ○ ) ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 ( ※有り ○無し ) ○ S (1) -F2 (t- ※2.0 ○ ) ○ M 4 S 工 法 ○ S (1) -M1 (t- ※1.5 ○ ) ○ M 4 S 1 工 法 ○ S (1) -M2 (t- ※1.5 ○ ) ○ S (1) -M3 (t- ※1.2 ○ )				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 E 工 法 ○ E-1 ※ E-2 表3.3.10 ○ P 2 E 工 法				
			種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ※ B-2 表3.3.3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ BI-1 ※ BI-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ AI-1 ※ AI-2 表3.3.5 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A-1 ※ A-2 表3.3.6 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ※ A-2				

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	
4	外壁改修工事	4 浮き部改修工法 (4.4.10) ~ (4.4.15)	4 外壁改修工事	8 アンカーピン工法 (4.2.2)	アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 ○	5 建具改修工事	9 鋼製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4)	外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1)	10 鋼製軽量建具 (5.4.2) ~ (5.4.4)	簡易気密扉の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1)	11 ステンレス製建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)	外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表5.2.1)
		9 注入口付アンカーピン工法 (4.2.2)	注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)、呼び径6mm ○	簡易気密扉の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない (表5.3.1)	簡易気密扉の性能値 ※適用する (A-3) ○適用しない							
		10 モルタル塗替え工法 (4.2.2) (4.4.9)	既製目地材 ○使用する(形状 _____) 仕上げ厚又は全塗膜厚が25mmを超える場合の処置 ※図示 ○	○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3)	○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3)							
		11 外壁部分張替工法及びタイル張替工法 (4.2.2) (4.5.8)	施工箇所及びタイルの種類	○断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ○H-2 ○H-3)	○断熱ドアセット、断熱サッシの適用 (断熱性の等級 ○H-2 ○H-3)							
		工法	材料	施工箇所	戸の鋼板 ※表面処理亜鉛メッキ鋼板 ○ビニル被覆鋼板							
		○充填工法	※エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル		めっきの付着量(JIS G3302) ※Z12又はF12を満足させる ○							
		○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		厚さ(mm) ※表5.3.2(片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ _____ mm							
		工法	材料	施工箇所	簡易気密扉の性能値 ※適用する (A-3) ○適用しない							
		○モルタル張り仕上げ			○防音ドアセット、防音サッシの適用 (遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3)							
		工法	材料	施工箇所	ステンレス鋼板 ※JIS G 4305							
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		ステンレス鋼板(屋外) ※SUS304 ○SUS430J1L									
工法	材料	施工箇所	ステンレス鋼板(屋内) ※SUS304 ○SUS430J1L ○SUS430									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		JISただし書き建具の寸法許容差 ※製造所標準製作規定寸法許容差による									
工法	材料	施工箇所	表面仕上げ ※HL仕上げ ○鏡面仕上げ									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		曲げ加工 ※普通曲げ ○角出し曲げ									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		マスターキーの製作 ※作成する( _____ グループ、各グループ _____ 個) ○作成しない									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		開き戸 (表5.6.1)									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		金物の種類 見え掛り部の材質 その他									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○シリンドラ箱錠 ○握り玉: ステンレス ○取付位置 ( _____ )									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○本締め付きモロック ○握り玉: ステンレス ○取付位置 ( _____ )									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○本締め錠 シリンダーキー: ステンレス ○取付位置 ( _____ )									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○空錠 ○握り玉: ステンレス ○取付位置 ( _____ )									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○グレモン錠 鍵: ハンドル: 亜鉛合金、(○ステンレス) ○取付位置 ( _____ )									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		点検口錠 亜鉛合金程度、(○ステンレス)									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○ビスロック ○握り玉: ステンレス、(○亜鉛合金) 亜鉛合金は木製建具のみ									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		点検口軸吊りヒンジ 建具製作所の仕様による。 ○自閉装置付き									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○フロアヒンジ かん部: ステンレス、(本体は鋼) ドアクローザー									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○ビッドヒンジ かん部: ステンレス、(本体は鋼) ○遅延閉り機能付き									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○ビッドヒンジ(ビッドタイプ) かん部: ステンレス、(本体は鋼)									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○ドアクローザー かん部: ステンレス、(本体は鋼) 7-4部: 鋼(焼付け塗装)									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		閉鎖順位調整器 ステンレス、(○鋼)									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○押棒・押板 (○ステンレス、○黄銅、○合成樹脂) ○取付位置 ( _____ )									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○7-4ヒッチ 鋼(加ムめつき)、(○ステンレス)									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○戸当り 亜鉛合金程度、(○ステンレス、○黄銅) ○おとり止め付き									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		引き戸 (表5.6.1)									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		金物の種類 見え掛り部の材質 その他									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		○クレセント 建具製作所の仕様による。 ○取付位置 ( _____ )									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		引手類 木製建具の場合: ステンレス (○黄銅)									
○モルタル塗替え工法	※改修幅仕4.4.11による		レール (上吊りの場合を除く) ステンレス、(○7-4ヒッチ合金、○黄銅) 黄銅は木製建具のみ									

6	内装改修工事	11 フローリング張り (6.11.2) ~ (6.11.8)	単層フローリング (表6.11.1) (表6.11.2) 種別 樹種 厚さ(mm) 下張り 工法 備考 ○フローリング ※なら ※15 ※あり ○釘留め工法 ボード ○ ○ ○ なし ○接着工法 ○フローリング ※なら ※15 ○モルタル工法 ○防水処理足金物付 ブロック ○ ○ ○ ○接着工法 ○モザイク ○ ○ ○ ○接着工法 パーケット ○ ○ ○ ○	6	内装改修工事	15 天井廻り縁	材質 ○アルミニウム製 ○塩化ビニル製	7	塗装改修工事	5 塗装工程 (7.4.2) ~ (7.14.2)	工程の種類 (表7.4.1)~(表7.14.1) 記号 名称 種別 SOP 合成樹脂塗合 木部 新規外部 ※A種 ○B種 ○C種 バインド塗り 新規内部 ○A種 ※B種 ○C種 塗替え ○A種 ※B種 (外部の場合工程2、工程4は行わない) ○C種 鉄鋼面 ○A種 ※B種 ○C種 亜鉛めっき面 鋼製建具 ※A種 ○B種 ○C種 塗替え ○A種 ※B種 ○C種 その他塗替え・新規 ○A種 ※B種 ○C種 CL ｸﾘｱｺｰﾀｰ塗り ○A種 ※B種 FE ﾌﾞﾗｼﾞﾙ樹脂塗合 木部 表7.6.1 鉄鋼面及び 亜鉛めっき鋼面 表7.6.2 NAD ｱｸﾘﾙ樹脂系 ○A種 ※B種 非水分散型塗料塗り DP 耐水性塗料塗り 鉄鋼面 ○A種 ○B種 ○C種 亜鉛めっき鋼面 ○A種 ○B種 ○C種 上塗り塗料等級 ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び ○A-1種 ○B-1種 ○C-1種 ○( ) 押出成形ｼｰﾄﾞ板面 ○A-2種 ○B-2種 ○C-2種 EP-G つや有合成樹脂 ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾌﾗｯｸ面、 ○A種 ※B種 ○C種 ｲﾝｼﾞﾝﾊﾞｲﾝﾄ塗り ｲﾝｼﾞﾝﾊﾞｲﾝﾄ面、石ｺﾞｰﾙﾄﾞ面、しみ止め ○ その他ｶﾞｰﾄﾞ面 ※しみ止めｼｰﾀﾞ (B種及びC種の場合) 木部 新規 ※A種 ○B種 ○C種 塗替え ○A種 ※B種 ○C種 鉄鋼面 ○A種 ※B種 ○C種 亜鉛めっき鋼面 ○A種 ※B種 ○C種 EP 合成樹脂 ｲﾝｼﾞﾝﾊﾞｲﾝﾄ塗り ○A種 ※B種 ○C種 しみ止め ○ ※しみ止めｼｰﾀﾞ (B種及びC種の場合) EP-G 合成樹脂 ｲﾝｼﾞﾝﾊﾞｲﾝﾄ塗り ○A種 ※B種 ○C種 模様塗料塗り UC ｸﾗｲﾝ樹脂ﾌﾗｯｸ塗り ○A種 ※B種 OS ｵｲﾙｽﾀｲﾝ塗り 表7.13.1 WP 木材保護塗料塗り ○A種 ※B種 (表7.15.1) 仕上塗りの種別 ○A種 ※つや有合成樹脂エマルションペイント ○B種 ○ 保証年限 ※7年(鉄面を除く)、3年(鉄面) ○ 年 ※請負業者と塗装施工業者又は事業協同組合の連名による保証書を提出すること。	8-2	耐震補強工事(コンクリート工事)	① コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4)	レディーミクストコンクリートの類別 ※I類 ○II類 設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) ○普通コンクリート 打設部位 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 備考 構造体 基礎 ※21 ○ ※15 ○18 上部 ※21 ○ ○15 ※18 ○軽量コンクリート 打設部位 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 備考 構造体 基礎 ※21 ○ ※15 ○18 上部 ※21 ○ ○15 ※18 ※構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [F <sub>c</sub> +構造体強度補正值(S)] N/mm <sup>2</sup> (標仕6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない) ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○高炉セメントのB種(施工箇所 ) ○シリカセメント ○フライアッシュセメントのB種(施工箇所 ) 骨材 粗骨材 ※砂利(JIS A5308)、砕石(JIS A5005) ○高炉ｽﾗｸﾞ ○電気炉酸化ｽﾗｸﾞ ○再生骨材H 細骨材 ※砂(JIS A5308)、砕砂(JIS A5005) ○高炉ｽﾗｸﾞ ○電気炉酸化ｽﾗｸﾞ ○銅ｽﾗｸﾞ ○ﾌｪﾛｸﾞﾙｽﾗｸﾞ ○再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※A(無害) ○ 混和材料 混和剤 ※AE剤、AE減水剤又は高性能AE剤の1種 (JIS 6204) 混和材 ※フライアッシュ (JIS A6201) 1種又はII種 ③ 型枠(せき板) (8.1.4) (8.2.6) 合板の規格 ※「合板の日本農林規格」の「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板の規格」による合板 ○ 合板の材種 ※広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○ 厚さ(mm) ※12 ○ 打直し仕上げのせき板 ※合板せき板を用いる場合 (表8.1.3) 種別 板面の品質 施工箇所 ○A種 ※8.2.6(b)(1) ○ ○B種 ※8.2.6(b)(2) ○ ○C種 ※8.2.6(b)(2) ○ ○合板せき板を用いない場合 せき板の種別 ｺﾝｸﾘｰﾄ面の仕上げり程度 ※8.1.4(d)(2)(i)② ○ 外部に面する打直し仕上げの打増し厚さ ※図示 ○20 シアコネクタとセパレーターの兼用 ○可 ○不可 スリーブに用いる材料 ○鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管 ○溶融亜鉛めっき鋼板 ○つば付き鋼管 ④ 構造体強度補正值 (8.5.5) (表8.5.1) ※気温による構造体強度補正值(S) 予想平均気温(°C) 補正值(T) 期間(打設日) 普通 早強 南部地域 中部地域 北部地域 8以上 5以上 3 3/6~6/31 3/11~7/20 3/11~7/10 0以上 0以上 6 9/11~11/15 9/1~11/5 9/1~10/31 8未満 5未満 6 11/16~3/5 11/6~3/10 11/1~3/10 N/mm <sup>2</sup> N/mm <sup>2</sup> N/mm <sup>2</sup> 南部地域(京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域(宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域(上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む) 室内の工事における温度補正 ○行わない(適用箇所 ) ○行う																				
		12 畳敷き (6.12.2)	種別 ○A種 ○B種 ○C種 ○D種 (表6.12.1)			16 モルタル塗り (6.15.2) ~ (6.15.6)	既製目地材 ○適用する (形状 ) 床の目地 ○敷ける (工法 ※改修標仕6.15.6(b)(3)による ○ )			17 タイル張り (6.16.2) ~ (6.16.5)	伸縮調整目地等 外壁及び床面 ※図示による ○ 屋内壁面 ※図示による ○ 施工後の確認及び試験 浮きの確認 ※全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※接着力試験機による接着力試験を行う ○行わない			18 セルフレベリング材塗り (6.17.2)	※種類及び品質は表6.17.1による ○石こう系 ○セメント系 厚さ(mm) ※10 ○15	6 マスチック塗材塗り (7.15.2)	② 普通ｺﾝｸﾘｰﾄの材料 (8.2.5)	③ 型枠(せき板) (8.1.4) (8.2.6)	④ 構造体強度補正值 (8.5.5) (表8.5.1)																
6	内装改修工事	13 せつこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2) ~ (6.13.3)	種別 ※表6.13.1によるJIS規格品とする (表6.13.1) 種類 規格、厚さ(mm) 等 ○せつこうボード (GB-R) ※12.5(不燃) ○9.5(不燃) ○化粧せつこうボード (GB-D) ○杉根模様 ○12.5(不燃) ○トラバーチン模様 (経路下地は専用のものとする) ○不燃積層せつこうボード (GB-NC) ○トラバーチン模様 ※9.5(不燃) ○模様無し ○シージングせつこうボード (GB-S) ○15(不燃) ○12.5(準不燃) ※9.5(準不燃) ○強化せつこうボード (GB-F) ○21(不燃) ○15(不燃) ○12.5(不燃) ○ロックウール吸音ボード (RW-B) ※25 ○ ○グラスウール吸音ボード (GW-B) ※25 ○ ○吸音あなあきせつこうボード (GB-P) ○9.5(準不燃) ○ロックウール化粧吸音板 (DR) 内部用 フラット ○12(不燃) ※9(不燃) 立体模様 ○15(不燃) ※12(不燃) 軒天用 フラット ○12(不燃) ※9(不燃) 立体模様 ○15(不燃) ※12(不燃)	7	塗装改修工事	1 塗装業者	○日本塗装工業会の会員 ○監督職員の承諾する塗装業者	8-1	耐震補強工事(鉄筋工事)	① 鉄筋の種類 (8.2.1) (表8.2.1)	異形鉄筋 種類の記号 径(mm) 備考 ※SD295A D16以下 ※SD345 D19以上 ○ ※SD295AはF <sub>c</sub> :21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する。	8-2	耐震補強工事(鉄筋工事)	2 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状、寸法 鉄線の径(mm)	8-3	耐震補強工事(鉄筋工事)	③ 鉄筋の継手 (8.3.4) (8.4.2)	部 位 接 合 方 法 径(mm) 重ね継手の長さ ○ ※ガス圧接 ○重ね継手 D19以上 ※改修標仕 ○ ○機械式継手 ○別図による ○ ※ガス圧接 ※重ね継手 D16以下 ○別図による ○機械式継手 種類 ○( ) 工法 ○( ) 品質確認方法、修正方法等 ○( ) 継手位置 ※構造図による ○( ) 鉄筋先組工法の柱・梁の主筋の継手を同一箇所に行ける場合 ※構造図による 定着長さ 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ ※構造図による ○( )	8-4	耐震補強工事(鉄筋工事)	4 柱の帯筋 (8.3.4)	○H型 ※W-I型 ○W-II型 ○図示	8-5	耐震補強工事(鉄筋工事)	⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)	※かぶり厚さは目地底から算定する。 ※耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。	8-6	耐震補強工事(鉄筋工事)	⑥ 壁の配筋及び補強 (8.3.7)	※構造特記による	8-7	耐震補強工事(鉄筋工事)	7 圧縮完了後の試験 (8.3.8)	試験方法 ※超音波探傷試験 ○引張試験
		14 壁紙張り (6.14.2) ~ (6.14.3)	防火性能・品質・規格・施工箇所 ※図示による ○下表による 施行箇所 防火性能 品質・規格 壁紙のホルムアルデヒドの放散量 JISで定める ※F☆☆☆☆ ○大臣認定品 ○ 下地調整 モルタル及びプラスター面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.4) ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.5) せつこうボード面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.7)			2 塗装材料 (7.1.3)	塗料のホルムアルデヒド等の放散量 JISで定める ※F☆☆☆☆ ○F☆☆☆ ○ 塗料のトルエン、キシレン、エチルベンゼン ※含有量の少ない規格品			3 下地調整 (7.2.2) ~ (7.2.7)	素地 種別 備考 木部 ○RA種 ※RB種 ○RC種 鉄鋼面 ○RA種 ※RB種 ○RC種 亜鉛めっき面 ○RA種 ※RB種 ○RC種 モルタル及びプラスター面 ○RA種 ※RB種 ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない ｺﾝｸﾘｰﾄ面及びALCパネル面 ○RA種 ※RB種 ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない ○RC種 ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び石こうｶﾞｰﾄﾞ面及びその他ｶﾞｰﾄﾞ面 ○RA種 ※RB種 ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない ○RC種			4 錆止め塗料塗り (7.3.2) (7.3.3)	錆止め塗料の種類 (表7.3.1)~(表7.3.4) 塗面 種別 規格名称 屋外 屋内 塗料種類 塗装工程種別 備考 鉄 ｼﾞﾝｸﾞﾙ 鉛さび止め ○ ○ 2種 新規鉄鋼面 A種 鉛・ｶﾙｼ-さび止め ○ ○ 1種 見え掛り部分 ※A種 ○B種 ○C種 見隠れ部分 B種 水系さび止め - ○ - ○A種 ※B種 ○C種 EP-G塗 塗替え 鉛・ｶﾙｼ-さび止め - ○ 2種 ○A種 ○B種 ※C種 亜鉛 A種 鉛酸ｶﾙｼ-さび止め ※ ※ - ○A種 ○B種 B種 変成ﾋﾞｼﾞｰ樹脂ﾌﾗｲﾝｸﾞ ○ ○ - ○C種(塗替え) C種 水系さび止め - ○ - EP-G塗																				

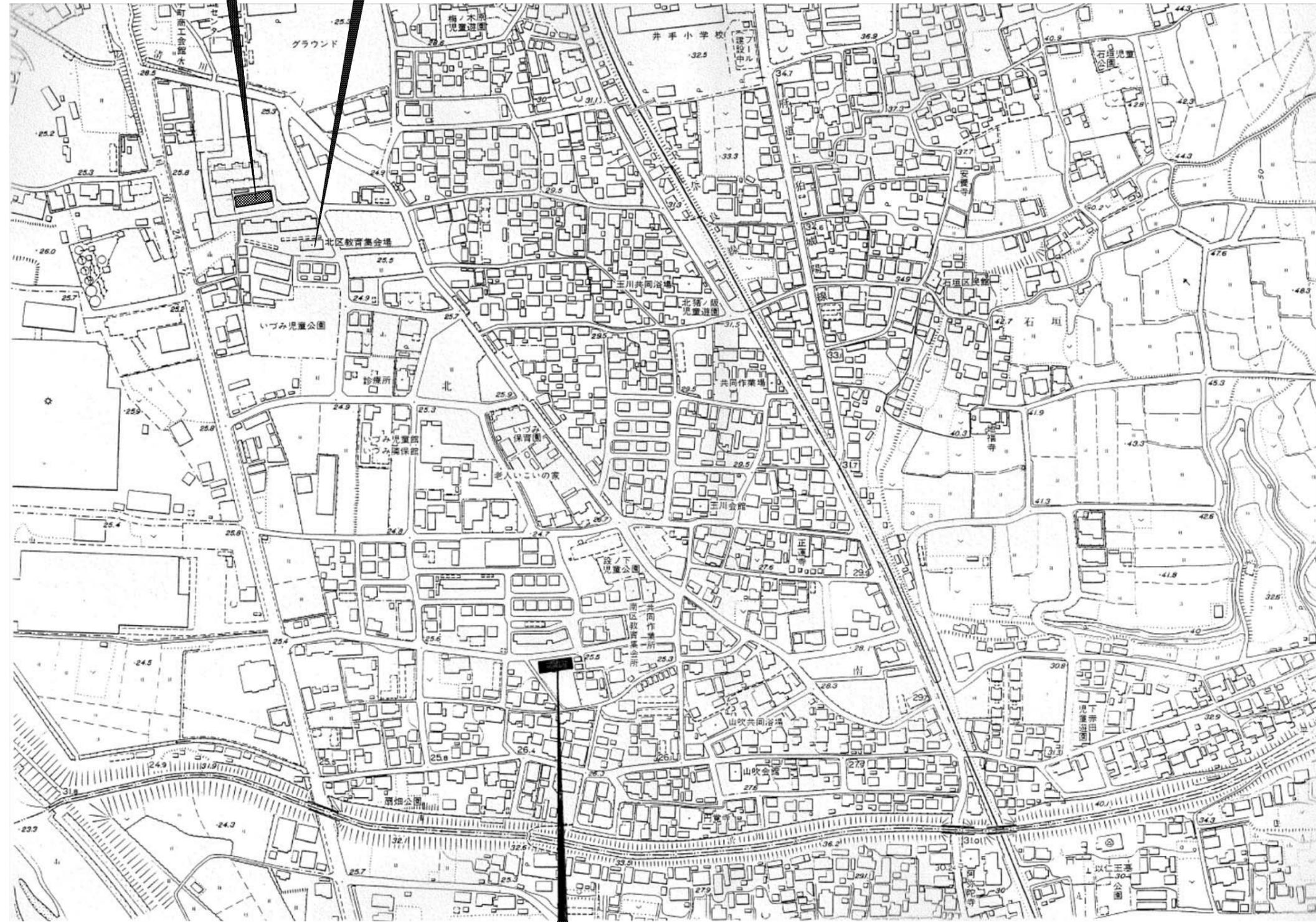
章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																			
8-2 耐震補強工事(コンクリート工事)	<p>7 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.6)</p> <p>※フレッシュコンクリートの試験 ※コンクリートの強度試験 ○材料試験 レディーミクストコンクリート施工の品質管理 ※スランプ試験、圧縮強度試験、空気量測定については、少なくとも一回以上、監督職員立会の上、実施しなければならない。ただし、やむを得ない場合は監督職員の承諾を受けた上で、請負者のみで実施してもよい。</p> <p>8 高い強度のコンクリート (8.9.3) (8.9.8)</p> <p>混和材料 混和剤 ※AE減水剤標準形若しくは遅延形又は高性能AE減水剤標準形若しくは遅延形(JIS A 6204) ○ 型枠の存置期間 ○</p> <p>9 軽量コンクリート (8.10.1)</p> <p>常時土あるいは水に直接接する部分の使用 ○可 ○不可 種別 ○1種 ○2種 施工箇所 所要気乾単位容積質量 ( ) kg/m<sup>3</sup></p>	8-4 耐震補強工事(鉄骨工事)	<p>5 溶融亜鉛メッキ高力ボルト (8.2.8)</p> <p>セットの種類 ○1類(F8T) 摩擦面の処理 ○プラスト処理(表面粗度5.0μmRz以上) ○リン酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※すべり耐力試験 試験方法等 ○図示による ○</p> <p>6 鉄骨の工作図 (8.1.6)</p> <p>原寸図 ○作成する ○作成しない 高力ボルト、普通ボルト及びアノボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)</p> <p>7 仮組 (8.12.9)</p> <p>○実施する 部位 ( ) ○実施しない</p> <p>8 溶接作業における技能資格者 (8.14.3)</p> <p>溶接作業者の技量付加試験 ※行わない ○行う 試験の要領 ○図示による ○</p> <p>9 溶接接合 (8.14.7) (8.14.11)</p> <p>開先の形状 ○図示による ○構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ スカラップの形状 ○図示による ○構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○改良型スカラップ エンドタブの切除する部分 ※見え掛り部となる部分 ○見え隠れ部となる部分 ○切除する部分なし</p> <p>10 溶接部の試験 (8.14.11)</p> <p>○浸透探傷試験(JIS Z 2343-1) ○磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1) ※超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※4.0% ○2.5% 検査水準 ※第6水準 ○第 水準 現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※4.0% ○2.5%</p> <p>11 耐火被覆 (8.17.2) ~ (8.17.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>材 料 ・ 工 法</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> <tr> <td>○耐火材吹付け</td> <td>○乾式吹付ロックウール ○半乾式吹付ロックウール ○湿式ロックウール ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○耐火材張り</td> <td>○繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○耐火材巻付け</td> <td>○高断熱ロックウール ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○双張り砂り塗り</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </table> <p>材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)</th> </tr> <tr> <td>○30分耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○1時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○2時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○3時間耐火</td> <td></td> </tr> </table> <p>性能</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)</th> </tr> <tr> <td>○30分耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○1時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○2時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○3時間耐火</td> <td></td> </tr> </table>	種 別	材 料 ・ 工 法	適用箇所(部位・部分)	○耐火材吹付け	○乾式吹付ロックウール ○半乾式吹付ロックウール ○湿式ロックウール ○		○耐火材張り	○繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○		○耐火材巻付け	○高断熱ロックウール ○		○双張り砂り塗り	-		種 別	適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)	○30分耐火		○1時間耐火		○2時間耐火		○3時間耐火		種 別	適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)	○30分耐火		○1時間耐火		○2時間耐火		○3時間耐火		8-5 耐震補強工事(グラウト)	<p>1 グラウト材 (8.2.10)</p> <p>グラウト材 ※早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ 無収縮モルタルの調合 ※製造所で調合されたプレミックスタイプ ○現場調合形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 ( N/mm<sup>2</sup> ) ※30以上 ○ ※一般部コンクリートと同等以上の強度(鉄筋コンクリート壁増設工事の壁頭部) コンパクションJ140値(秒) ※6~10 ○ 乾燥収縮 ( 10<sup>-4</sup> ) ※0 ○ ※グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※行う ○行わない コンシステンシー試験 ※行う ○行わない</p> <p>2 柱底等の均しモルタル(8.2.10)</p> <p>無収縮モルタル材 ○使用する ○使用しない</p>	8-7 耐震補強工事(鉄骨ブレース設置工事)	<p>1 補強工法 (8.20.2)</p> <p>○内側補強工法 ○枠付き鉄骨K型ブレース ○枠付き鉄骨X型ブレース ○枠付き鉄骨箱柱付ブレース ○枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○枠付き有開口鉄板パネル ○枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 ( ) ○外側補強工法 ○枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 ( )</p> <p>2 既存部分の撤去 (8.20.2)</p> <p>既存仕上げの撤去範囲 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>3 既存部分の処理 (8.20.3)</p> <p>目荒しの程度 ○図示 ※本特記仕様書8-6-3による。</p> <p>4 既存構造体との取合い (8.20.7)</p> <p>割製補強筋 ※以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○図示</p> <p>5 仕上げ (8.20.9) ※図示 ○</p>
種 別	材 料 ・ 工 法	適用箇所(部位・部分)																																								
○耐火材吹付け	○乾式吹付ロックウール ○半乾式吹付ロックウール ○湿式ロックウール ○																																									
○耐火材張り	○繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○																																									
○耐火材巻付け	○高断熱ロックウール ○																																									
○双張り砂り塗り	-																																									
種 別	適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)																																									
○30分耐火																																										
○1時間耐火																																										
○2時間耐火																																										
○3時間耐火																																										
種 別	適 用 箇 所 (部 位 ・ 部 分)																																									
○30分耐火																																										
○1時間耐火																																										
○2時間耐火																																										
○3時間耐火																																										
8-3 耐震補強工事(あと施工アンカー工事)	<p>1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.11.2)</p> <p>○金属系アンカー 引張り耐力 ( ) せん断耐力 ( ) 径 ( ) 埋込み深さ ( ) セット方式 ※本体打込み式 ○ 接合筋 種類 ( ) 長さ ( ) 径 ( )</p> <p>○接着系アンカー 引張り耐力 ( ) せん断耐力 ( ) 種類 ※カプセル型 ○ アンカー筋 ※改修仕様表8.2.1の異形棒鋼 径 ( ) 埋込み深さ ( ) 新設壁内への定着長さ ( )</p> <p>埋め込み配管等の探査 範囲 ※あと施工アンカー施工部分全て ○図示 方法 ※鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ○図示</p> <p>2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.11.5)</p> <p>性能確認試験 ※行わない ○行う 施工確認試験 ※行う(引張試験機による引張試験 確認強度 ( )) ○行わない</p>	8-6 耐震補強工事(現場打ちRC壁の増設工事)	<p>1 補強工法 (8.19.3)</p> <p>○新設耐震壁 ○増打ち耐震壁 ○開口部閉鎖壁 ○新設袖壁 製造所及び専門業者 ( )</p> <p>2 既存部分の撤去 (8.19.2)</p> <p>既存仕上げの撤去範囲 ※図示 ○本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ※図示 ○ 既存構造体の撤去範囲 ※図示 ○ はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○図示</p> <p>3 既存部分の処理 (8.19.3)</p> <p>目荒しの程度 既存柱・梁 ※平均深さ2~5(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○図示 壁(増打ち壁増設の場合) ※平均深さ2~5(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○図示</p> <p>4 鉄筋の加工及び組立て (8.19.6)</p> <p>割製補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ※1/4筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○図示 開口付増設壁の開口端部鉄筋及び増設で壁の端部横筋 ※ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○図示</p> <p>5 コンクリートの打込み工法(8.19.8)</p> <p>※流込み工法 ○圧入工法</p> <p>6 既存構造体との取合い (8.19.9)</p> <p>※8.19.9の方法による他、以下に注意する ※開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚く配筋の場合) ※開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○図示</p> <p>7 仕上げ (8.19.10) ※図示 ○</p>	8-8 耐震補強工事(柱補強工事)	<p>1 補強工法 (8.21.2)</p> <p>○溶接金網巻き工法 ○溶接閉鎖フープ巻き工法 ○鋼板巻き工法 ○帯板巻き工法 ○連続繊維補強工法 ○</p> <p>2 既存部分の撤去 (8.21.2)</p> <p>既存仕上げの撤去範囲 ※本特記仕様書8-6-2による他、下記による。 垂れ壁・腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30mmのスリットを残して補強を行う。 ○図示 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○図示 ※本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>3 既存部分の処理 (8.21.3)</p> <p>目荒し程度(連続繊維補強工法以外) ※平均深さ2~5(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○図示 柱の成型(連続繊維補強工法) ※支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。(※30( ) ) ○図示</p> <p>4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法(8.21.5)</p> <p>柱頭のスリット ○設ける ○設けない 柱脚のスリット ○設ける ○設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○ mm 打込みの工法 ○流込み工法 ○圧入工法</p> <p>5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法(8.21.6)</p> <p>鋼板の加工 ○円形 ○角形 ○ 柱頭のスリット ○設ける ○設けない 柱脚のスリット ○設ける ○設けない 柱脚スリットを設ける場合の隅部剥離防止処理方法 ○小口塞ぎ鉄板溶接 ○鋼板曲げ加工</p> <p>グラウト材 グラウト材の仕様 ※本特記仕様書8-5-1による ○ グラウト材の厚さ ○20mm ○ mm</p>																																					
8-4 耐震補強工事(鉄骨工事)	<p>1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)</p> <p>○監督職員の承諾する工場 ※建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(O S O H O M O R O J)グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場</p> <p>2 施工管理技術者 (8.1.5)</p> <p>※適用する ○適用しない</p> <p>3 鋼材の種類 (8.2.7)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>規格等</th> </tr> <tr> <td>SS400</td> <td></td> <td>JIS G 3101</td> </tr> <tr> <td>SM400A</td> <td></td> <td>JIS G 3106</td> </tr> <tr> <td>SM400A</td> <td></td> <td>JIS G 3136</td> </tr> </table> <p>4 高力ボルト (8.2.8) (8.13.2) (8.13.7)</p> <p>ボルトの種類 ※トルシア形高力ボルト(建築基準法の認定品) セットの種類 ○2種(S10T) ○JIS形高力ボルト(JIS B 1186) セットの種類 ○2種(S10T) ボルト径 ○ すべり係数試験 ※行わない ○行う 試験方法等 ○図示による</p> <p>本締め JIS型高力ボルトのナット回転法 ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 ○</p>	種類の記号	使用箇所	規格等	SS400		JIS G 3101	SM400A		JIS G 3106	SM400A		JIS G 3136	12 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3) <p>適用 ○構造用アンカー 材質 ○SNR400B ○ ( ) アンカーフレームの形状及び寸法 ※図示による ( ) ○ ( ) ○建方用アンカー 材質 ○SS400 ○ ( ) アンカーボルトの保持及び埋め込み方法 種別 ○A種 ○B種 ○C種 柱底均しモルタルの厚さ ○50mm ○30mm</p> <p>9 柱底均しモルタル (7.2.9)</p> <p>モルタルの種類 ※無収縮モルタル ○ ( )</p> <p>※公共建築工事標準仕様書(022年版)による。</p>																												
種類の記号	使用箇所	規格等																																								
SS400		JIS G 3101																																								
SM400A		JIS G 3106																																								
SM400A		JIS G 3136																																								



章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																									
10 排水工事	<p>本章の項目及び特記事項の( )内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(平成22年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。</p> <p>① 排水管 (21.2.1) (21.2.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種 (表21.2.1)</th> <th>管 の 種 類</th> <th>接 合 方 法</th> </tr> <tr> <td>○ 遠心力鉄筋コンクリート管</td> <td>※ 外圧管 (※ 1種 ○ 2種)</td> <td>○ モルタル ○ ゴム輪</td> </tr> <tr> <td>● 硬質塩化ビニル管</td> <td>※ VP ○ VU</td> <td>● 接着 ○ ゴム輪</td> </tr> <tr> <td>○ 硬質塩化ビニル管継手</td> <td>※ DV ○ VU継手</td> <td></td> </tr> </table> <p>● 側塊の形状及び寸法 ※ 図示 ○ ( )  ● 排水樹の種類 ※ 図示 ○ ( )  ○ 鋼鉄製マンホールふたの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>適用荷重 (安全荷重)</th> </tr> <tr> <td>○ 水封形 ○ 密閉形 (フーパーバッチ式)</td> <td>○ T-2 用 (5KN) ○ T-6 用 (115KN)</td> </tr> <tr> <td>○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (バッチ式)</td> <td>○ T-20 用 (50KN)</td> </tr> </table> <p>○ グレーチングふた</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>材 質</th> <th>形 式</th> <th>適用荷重</th> <th>タイプ</th> <th>上面形状</th> </tr> <tr> <td>○ 溝ふた用</td> <td>● 鋼製</td> <td>受枠 一本止</td> <td>○ 歩行用</td> <td>○ 普通目</td> <td>○ 平面</td> </tr> <tr> <td>● 樹上付用</td> <td>○ スチール製</td> <td>● あり</td> <td>○ T-2 用</td> <td>※ 細目</td> <td>※ 凹凸形</td> </tr> <tr> <td>○ 溝上付用</td> <td>○ 鋼鉄製</td> <td>○ 図示</td> <td>○ T-6 用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ U字溝用</td> <td>○ 樹脂製</td> <td>ポルト固定※なし ● T-14用</td> <td>● 図示 ○ T-20用</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>③ コンクリート側溝 (22.9.2)</p> <table border="1"> <tr> <td>鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名</td> <td>○ 250A ※ 250B ○</td> </tr> <tr> <td>コンクリート形のJISによる呼び名</td> <td>○ 250A ※ 250B ○</td> </tr> <tr> <td>鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名</td> <td>○ 240 ○ 300A ○ 360A ○</td> </tr> <tr> <td>現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2)</td> <td>○ 18 ○</td> </tr> <tr> <td>地業の材料 標仕4.6.2 (a)</td> <td>○ C-40 ※ RC-40</td> </tr> </table>	材 種 (表21.2.1)	管 の 種 類	接 合 方 法	○ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管 (※ 1種 ○ 2種)	○ モルタル ○ ゴム輪	● 硬質塩化ビニル管	※ VP ○ VU	● 接着 ○ ゴム輪	○ 硬質塩化ビニル管継手	※ DV ○ VU継手		種 類	適用荷重 (安全荷重)	○ 水封形 ○ 密閉形 (フーパーバッチ式)	○ T-2 用 (5KN) ○ T-6 用 (115KN)	○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (バッチ式)	○ T-20 用 (50KN)	種 類	材 質	形 式	適用荷重	タイプ	上面形状	○ 溝ふた用	● 鋼製	受枠 一本止	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平面	● 樹上付用	○ スチール製	● あり	○ T-2 用	※ 細目	※ 凹凸形	○ 溝上付用	○ 鋼鉄製	○ 図示	○ T-6 用			○ U字溝用	○ 樹脂製	ポルト固定※なし ● T-14用	● 図示 ○ T-20用			鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名	○ 250A ※ 250B ○	コンクリート形のJISによる呼び名	○ 250A ※ 250B ○	鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名	○ 240 ○ 300A ○ 360A ○	現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2)	○ 18 ○	地業の材料 標仕4.6.2 (a)	○ C-40 ※ RC-40	11 舗装工事	<p>6 透水性舗装 (22.7.3) ~ (22.7.6)</p> <p>7 排水性舗装 (22.8.3) ~ (22.8.6)</p> <p>⑧ ブロック系舗装 (22.9.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>目 地</th> </tr> <tr> <td>※ 普通平板(N) ○ カラー平板(C)</td> <td>※ 300角</td> <td>※ 60</td> <td>※ 砂</td> </tr> <tr> <td>○ 洗出平板(W) ○ 縦石(S) ○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○ モルタル</td> </tr> </table> <p>品質・規格</p> <p>● インターlockingブロック塗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>厚 さ (mm)</th> <th>色 彩 及 び 表 面 加 工 等</th> </tr> <tr> <td>※ 標準ブロック ○ 京エレンガ</td> <td>車道部 ※ 80 ○</td> <td>※ 標準品</td> </tr> <tr> <td>○ 透水性ブロック</td> <td>歩道部 ※ 60 ○ 80 ○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 植生ブロック</td> <td>○ 60 ※ 80 ○ 100 ○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>品質・規格</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>厚 さ (mm)</th> <th>工 法</th> <th>規 格 品</th> </tr> <tr> <td>※ 小舗石 (花崗岩)</td> <td>※ 80~100</td> <td>※ うろこ張り</td> <td>※ 2等品</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>品質・規格</p> <p>⑨ 縁石 (22.10.2)</p> <table border="1"> <tr> <td>歩車道境界ブロックのJISによる呼び名</td> <td>※ A ○</td> </tr> <tr> <td>地先境界ブロックのJISによる呼び名</td> <td>○ A ○ C ○</td> </tr> <tr> <td>砂利地業の厚さ</td> <td>※ 100mm ○</td> </tr> </table> <p>10 砂利敷き (22.11.1) (22.11.2)</p> <table border="1"> <tr> <td>通 路</td> <td>※ A種 ○ B種</td> </tr> <tr> <td>建物周囲その他</td> <td>○ A種 ※ B種</td> </tr> </table> <p>※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする</p> <p>⑪ 白線引き</p> <table border="1"> <tr> <td>種 類</td> <td>○ 溶融式 ● ペイント式</td> <td>幅 (cm) ○ 15 ○</td> </tr> </table>	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目 地	※ 普通平板(N) ○ カラー平板(C)	※ 300角	※ 60	※ 砂	○ 洗出平板(W) ○ 縦石(S) ○	○	○	○ モルタル	種 類	厚 さ (mm)	色 彩 及 び 表 面 加 工 等	※ 標準ブロック ○ 京エレンガ	車道部 ※ 80 ○	※ 標準品	○ 透水性ブロック	歩道部 ※ 60 ○ 80 ○	○	○ 植生ブロック	○ 60 ※ 80 ○ 100 ○	○	種 類	厚 さ (mm)	工 法	規 格 品	※ 小舗石 (花崗岩)	※ 80~100	※ うろこ張り	※ 2等品	○	○	○	○	歩車道境界ブロックのJISによる呼び名	※ A ○	地先境界ブロックのJISによる呼び名	○ A ○ C ○	砂利地業の厚さ	※ 100mm ○	通 路	※ A種 ○ B種	建物周囲その他	○ A種 ※ B種	種 類	○ 溶融式 ● ペイント式	幅 (cm) ○ 15 ○	12 環境配慮改修工事	<p>3 アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1)</p> <p>○ 行う</p> <table border="1"> <tr> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点 (各施工箇所ごと)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>調査対象室外部付近</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>負圧粉じん装置の排出吹き出し口</td> <td>吹出し風速1m/秒以下の位置 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>処理作業室外</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点</td> <td>※ 養生中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>調査対象室外部付近</td> <td>○ 1点 ○ 2点 ○ 点</td> <td>※ 1週間以降</td> </tr> </table> <p>※ 周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。  ○ 行わない</p> <p>測定機関 ※ (社) 日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。  ○</p> <p>報告書提出部数 ※ 3部 ○ 部</p> <p>4 アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)</p> <p>施工業者 ※ 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出すること。  ○ 「吹付け材粉じん飛散防止処理技術」について(財)日本建築センターの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。</p> <p>処理を行う範囲 ※ 図示 (仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認) ○ 全ての室 ○ ( )</p> <p>除去工法 ※ 改修標仕9.1.3(b)(1)による ○</p> <p>除去物の処理方法 ※ 密封処理 (二重袋梱包) 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。  ○ セメント固化  ○ 溶融固化  除去物等の保管 ※ 他の内装材等と分別して保管する。  ※ 飛散防止措置を講ずる。  ※ アスベスト等の保管場所であることを表示を行う。</p> <p>5 アスベスト含有保温材の除去 (9.1.4)</p> <p>処理を行う範囲 ※ 図示 ○</p> <p>作業場の隔離 ※ 養生シート等により区画する。  ※ 掻き落とし・破砕・切断により除去する場合は改修標仕9.1.3(a)による隔離とする ○</p> <p>6 アスベスト含有成形板の除去 (9.1.5)</p> <p>処理を行う範囲 ※ 図示 ○</p> <p>作業場の隔離 ※ 養生シート等により区画する。  ※ 掻き落とし・破砕・切断により除去する場合は改修標仕9.1.3(a)による隔離とする ○</p> <p>処理を行うアスベスト成形板の仕様</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>厚 さ (mm)</th> <th>種 類</th> <th>厚 さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>○ 化粧石膏ボード</td> <td>○ 9.5</td> <td>○ 石綿ロックウール</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ ビニル床タイル</td> <td>○ 2.0</td> <td>○ 石綿スレート(外装・内装)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 石綿保温材</td> <td>○</td> <td>○ 押出成形セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ けいそう土保温材</td> <td>○</td> <td>○ 化粧石綿セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材</td> <td>○</td> <td>○ 石綿セメントけい酸加シム板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ けい酸カルシウム保温材</td> <td>○</td> <td>○ 化粧石綿セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 親水性バーライト保温材</td> <td>○</td> <td>○ 吸音穴あき石綿セメント板</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備 考	処理作業前	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点			調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点		処理作業中	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点			負圧粉じん装置の排出吹き出し口	吹出し風速1m/秒以下の位置 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点			処理作業室外	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点		処理作業後	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	※ 養生中		調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点	※ 1週間以降	種 類	厚 さ (mm)	種 類	厚 さ (mm)	○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○	○ ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート(外装・内装)	○	○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○	○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○	○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸加シム板	○	○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○	○ 親水性バーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○	○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	○	○	12 環境配慮改修工事	<p>7 外断熱改修工事 (9.3.2) ~ (9.3.4)</p> <p>断熱材 厚さ(mm) ○</p> <p>材質 ○ ビーズ法* リスリフォーム保温材 ○ 押出法* リスリフォーム保温材A種  ○ フォルムフォーム保温材、F☆☆☆☆ ○ ロックウール  ○ グラスウール</p> <p>外装材 ○ 適用する (種類 _____ 防火性能 _____)  ○ 適用しない</p> <p>既存外壁 ○ 仕上げ材の撤去 ( )  ○ 下地の清掃 ( )  ○ 下地の欠損部の改修 ( 4.1.4[外壁改修工法の種類]による )</p> <p>施工 ※ 断熱材製造所の仕様による ○ ( )  通気層 ○ 有 (厚さ mm) ○ 無  建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ○ ( )</p> <p>8 断熱・防露改修工事 (9.5.2) ~ (9.5.3)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">断熱材</th> <th colspan="2">材 料</th> <th rowspan="2">JIS A 9511</th> <th colspan="2">そ の 他</th> </tr> <tr> <td>○ ビーズ法* リスリフォーム保温材</td> <td>○ 押出法* リスリフォーム保温材</td> <td>断熱材厚さ ○ mm</td> <td>接着剤の種類/タイプ/ヒド/放散量</td> </tr> <tr> <td>打込み工法</td> <td>○ 硬質ウレタンフォーム保温材A種</td> <td></td> <td>※ F☆☆☆☆</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>断熱材現場発泡工法</td> <td>○ フェノールフォーム保温材 (※ F☆☆☆☆ ○ )</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※ A種1 ○</td> <td>JIS A 9526</td> <td>吹付け厚さ ○ mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(難燃性を有するものとする)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>9 屋上緑化 (9.6.2) ~ (9.6.4)</p> <p>※ 屋上緑化軽量システム  樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>寸 法</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>芝・地被類の種類 ※ 図示による  ○ こうらい芝 (※ 目地張り ○ )  ○ 野芝 (※ 目地張り ○ )  ○ セダム類 (○ カット ○ ふるい ○ プラグ苗 ○ )</p> <p>新植芝及び地被類の枯損償還 ※ 引渡しの日から1年 ○ 引渡しの日から _____ 年  かん水装置 ○ 設置する ( )  ○ 設置しない</p> <p>既存保護層の撤去 ○ 行う (工法は3.2.3[既存保護層等の撤去]による) ○ 行わない</p> <p>見切り材 ○ ( )  舗装材 ○ ( )  水抜き管 ○ ( )  マシナ材 ○ ( )</p> <p>支柱材 (23.3.2)による</p>	断熱材	材 料		JIS A 9511	そ の 他		○ ビーズ法* リスリフォーム保温材	○ 押出法* リスリフォーム保温材	断熱材厚さ ○ mm	接着剤の種類/タイプ/ヒド/放散量	打込み工法	○ 硬質ウレタンフォーム保温材A種		※ F☆☆☆☆			断熱材現場発泡工法	○ フェノールフォーム保温材 (※ F☆☆☆☆ ○ )		○				※ A種1 ○	JIS A 9526	吹付け厚さ ○ mm				(難燃性を有するものとする)					種 類	寸 法	数 量	備 考				
材 種 (表21.2.1)	管 の 種 類	接 合 方 法																																																																																																																																																																																																																														
○ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管 (※ 1種 ○ 2種)	○ モルタル ○ ゴム輪																																																																																																																																																																																																																														
● 硬質塩化ビニル管	※ VP ○ VU	● 接着 ○ ゴム輪																																																																																																																																																																																																																														
○ 硬質塩化ビニル管継手	※ DV ○ VU継手																																																																																																																																																																																																																															
種 類	適用荷重 (安全荷重)																																																																																																																																																																																																																															
○ 水封形 ○ 密閉形 (フーパーバッチ式)	○ T-2 用 (5KN) ○ T-6 用 (115KN)																																																																																																																																																																																																																															
○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形 (バッチ式)	○ T-20 用 (50KN)																																																																																																																																																																																																																															
種 類	材 質	形 式	適用荷重	タイプ	上面形状																																																																																																																																																																																																																											
○ 溝ふた用	● 鋼製	受枠 一本止	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平面																																																																																																																																																																																																																											
● 樹上付用	○ スチール製	● あり	○ T-2 用	※ 細目	※ 凹凸形																																																																																																																																																																																																																											
○ 溝上付用	○ 鋼鉄製	○ 図示	○ T-6 用																																																																																																																																																																																																																													
○ U字溝用	○ 樹脂製	ポルト固定※なし ● T-14用	● 図示 ○ T-20用																																																																																																																																																																																																																													
鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名	○ 250A ※ 250B ○																																																																																																																																																																																																																															
コンクリート形のJISによる呼び名	○ 250A ※ 250B ○																																																																																																																																																																																																																															
鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名	○ 240 ○ 300A ○ 360A ○																																																																																																																																																																																																																															
現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2)	○ 18 ○																																																																																																																																																																																																																															
地業の材料 標仕4.6.2 (a)	○ C-40 ※ RC-40																																																																																																																																																																																																																															
種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目 地																																																																																																																																																																																																																													
※ 普通平板(N) ○ カラー平板(C)	※ 300角	※ 60	※ 砂																																																																																																																																																																																																																													
○ 洗出平板(W) ○ 縦石(S) ○	○	○	○ モルタル																																																																																																																																																																																																																													
種 類	厚 さ (mm)	色 彩 及 び 表 面 加 工 等																																																																																																																																																																																																																														
※ 標準ブロック ○ 京エレンガ	車道部 ※ 80 ○	※ 標準品																																																																																																																																																																																																																														
○ 透水性ブロック	歩道部 ※ 60 ○ 80 ○	○																																																																																																																																																																																																																														
○ 植生ブロック	○ 60 ※ 80 ○ 100 ○	○																																																																																																																																																																																																																														
種 類	厚 さ (mm)	工 法	規 格 品																																																																																																																																																																																																																													
※ 小舗石 (花崗岩)	※ 80~100	※ うろこ張り	※ 2等品																																																																																																																																																																																																																													
○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																													
歩車道境界ブロックのJISによる呼び名	※ A ○																																																																																																																																																																																																																															
地先境界ブロックのJISによる呼び名	○ A ○ C ○																																																																																																																																																																																																																															
砂利地業の厚さ	※ 100mm ○																																																																																																																																																																																																																															
通 路	※ A種 ○ B種																																																																																																																																																																																																																															
建物周囲その他	○ A種 ※ B種																																																																																																																																																																																																																															
種 類	○ 溶融式 ● ペイント式	幅 (cm) ○ 15 ○																																																																																																																																																																																																																														
測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備 考																																																																																																																																																																																																																													
処理作業前	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点																																																																																																																																																																																																																														
	調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点																																																																																																																																																																																																																														
処理作業中	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点																																																																																																																																																																																																																														
	負圧粉じん装置の排出吹き出し口	吹出し風速1m/秒以下の位置 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点																																																																																																																																																																																																																														
	処理作業室外	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点																																																																																																																																																																																																																														
処理作業後	処理作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	※ 養生中																																																																																																																																																																																																																													
	調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点	※ 1週間以降																																																																																																																																																																																																																													
種 類	厚 さ (mm)	種 類	厚 さ (mm)																																																																																																																																																																																																																													
○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○																																																																																																																																																																																																																													
○ ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート(外装・内装)	○																																																																																																																																																																																																																													
○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○																																																																																																																																																																																																																													
○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○																																																																																																																																																																																																																													
○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸加シム板	○																																																																																																																																																																																																																													
○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○																																																																																																																																																																																																																													
○ 親水性バーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○																																																																																																																																																																																																																													
○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	○	○																																																																																																																																																																																																																													
断熱材	材 料		JIS A 9511	そ の 他																																																																																																																																																																																																																												
	○ ビーズ法* リスリフォーム保温材	○ 押出法* リスリフォーム保温材		断熱材厚さ ○ mm	接着剤の種類/タイプ/ヒド/放散量																																																																																																																																																																																																																											
打込み工法	○ 硬質ウレタンフォーム保温材A種		※ F☆☆☆☆																																																																																																																																																																																																																													
断熱材現場発泡工法	○ フェノールフォーム保温材 (※ F☆☆☆☆ ○ )		○																																																																																																																																																																																																																													
	※ A種1 ○	JIS A 9526	吹付け厚さ ○ mm																																																																																																																																																																																																																													
	(難燃性を有するものとする)																																																																																																																																																																																																																															
種 類	寸 法	数 量	備 考																																																																																																																																																																																																																													
11 舗装工事	<p>本章の項目及び特記事項の( )内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(平成22年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。</p> <p>① 路床 (22.2.3) (22.2.5)</p> <p>盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表3.2.1)  路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表22.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>地盤改良材 ( )</th> <th>高圧セメントB種</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 普通ポルトランドセメント</td> <td>○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ フライアッシュセメントB種</td> <td>○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号</td> </tr> </table> <p>添加量 ( _____ kg/m3)</p> <p>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ● 行う (※ 乱した土 ○ 乱さない土 )  路床締固め度の試験 ○ 行う ○ 行わない  砂の粒度試験 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>② 路盤 (22.3.3) (22.3.5)</p> <p>材料 ※ 再生クラッシュラン (RC-40)  ○ クラッシュラン (C-40) ○ クラッシュラン鉄鋼スラグ (CS-40)  路盤締固め度の試験 ○ 行う</p> <p>③ アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>舗 装 の 種 類</th> <th>車道部基層</th> <th>カラー舗装の種類</th> </tr> <tr> <td>※ アスファルト舗装</td> <td>※</td> <td>※ 顔料混入加熱アスファルト混合物</td> </tr> </table> <p>アスファルト ※ 再生アスファルト ○ ストレートアスファルト</p> <p>再生加熱アスファルト混合物の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>※ 一般地域</th> <th>○ 寒冷地域</th> </tr> <tr> <td>表層</td> <td>※ 密粒度アスファルト混合物 (13)</td> <td>※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 細粒度アスファルト混合物 (13)</td> <td>○ 細粒度アスファルト混合物 (13F)</td> </tr> <tr> <td>基層</td> <td>※ 粗粒度アスファルト混合物 (20)</td> <td></td> </tr> </table> <p>シールコート ※ 行わない ○ 行う ( 施工範囲 )  アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない  アスファルト締固め度、厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない</p> <p>④ コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)</p> <p>早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する  注入材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ  コンクリート版厚さの試験 ○ 行う ※ 行わない</p> <p>5 カラー塗装 (22.6.3) ~ (22.6.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>部 位</th> <th>配合その他</th> </tr> <tr> <td>※ 加熱系アスファルト混合物</td> <td>○ 車道部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石</td> <td>○ 歩道部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 _____)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車道部の基層 ○ 適用する ※ 適用しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 常温系樹脂系混合物</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 常温系ニート工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 常温系塗布工法</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 類	地盤改良材 ( )	高圧セメントB種		○ 普通ポルトランドセメント	○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号		○ フライアッシュセメントB種	○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号	舗 装 の 種 類	車道部基層	カラー舗装の種類	※ アスファルト舗装	※	※ 顔料混入加熱アスファルト混合物	区分	※ 一般地域	○ 寒冷地域	表層	※ 密粒度アスファルト混合物 (13)	※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)		○ 細粒度アスファルト混合物 (13)	○ 細粒度アスファルト混合物 (13F)	基層	※ 粗粒度アスファルト混合物 (20)		種 類	部 位	配合その他	※ 加熱系アスファルト混合物	○ 車道部		添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石	○ 歩道部		結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 _____)			アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない			車道部の基層 ○ 適用する ※ 適用しない			○ 常温系樹脂系混合物			○ 常温系ニート工法			○ 常温系塗布工法			12 環境配慮改修工事	<p>1 一般事項 (9.1.1)</p> <p>○ アスベスト含有吹付け材処理工事  ○ 除去工法 ( )  ○ 封じ込め工法 ( )  ○ 囲い込み工法 ( )</p> <p>○ アスベスト含有保温材処理工事  ○ アスベスト含有成型板処理工事</p> <p>2 施工調査等 (9.1.1)</p> <p>施工調査 ○ 行う  アスベストの処理に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。  調査箇所 ※ 図示 ○  調査事項  ※ アスベスト使用部位の確認  ※ アスベスト層の厚さの確認  ※ 施工範囲と工事管理区分の確認  ※ 更衣施設等の仮設計画  ※ 廃棄物等の搬出方法  ○ 行わない</p> <p>アスベスト含有分析 ○ 行う(分析結果を監督職員に提出する)  ※ JIS A 1481に基づくこと</p> <table border="1"> <tr> <th>材 料 名</th> <th>定性分析</th> <th>定量分析</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ( 試料数 )</td> <td>○ ( 試料数 )</td> </tr> </table> <p>○ 行わない</p>	材 料 名	定性分析	定量分析		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )		○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																								
種 類	地盤改良材 ( )	高圧セメントB種																																																																																																																																																																																																																														
	○ 普通ポルトランドセメント	○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号																																																																																																																																																																																																																														
	○ フライアッシュセメントB種	○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号																																																																																																																																																																																																																														
舗 装 の 種 類	車道部基層	カラー舗装の種類																																																																																																																																																																																																																														
※ アスファルト舗装	※	※ 顔料混入加熱アスファルト混合物																																																																																																																																																																																																																														
区分	※ 一般地域	○ 寒冷地域																																																																																																																																																																																																																														
表層	※ 密粒度アスファルト混合物 (13)	※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)																																																																																																																																																																																																																														
	○ 細粒度アスファルト混合物 (13)	○ 細粒度アスファルト混合物 (13F)																																																																																																																																																																																																																														
基層	※ 粗粒度アスファルト混合物 (20)																																																																																																																																																																																																																															
種 類	部 位	配合その他																																																																																																																																																																																																																														
※ 加熱系アスファルト混合物	○ 車道部																																																																																																																																																																																																																															
添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石	○ 歩道部																																																																																																																																																																																																																															
結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量 _____)																																																																																																																																																																																																																																
アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない																																																																																																																																																																																																																																
車道部の基層 ○ 適用する ※ 適用しない																																																																																																																																																																																																																																
○ 常温系樹脂系混合物																																																																																																																																																																																																																																
○ 常温系ニート工法																																																																																																																																																																																																																																
○ 常温系塗布工法																																																																																																																																																																																																																																
材 料 名	定性分析	定量分析																																																																																																																																																																																																																														
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																																														
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																																														
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																																														
	○ ( 試料数 )	○ ( 試料数 )																																																																																																																																																																																																																														

北団地2号棟

仮設駐車場



南団地2号棟



企業組合  
一級建築士事務所 **ひとみ** 設計

一級建築士登録第187741号 石上圭介  
一級建築士事務所登録(22A) 第00282号

特記

工事名称 4同人第3号  
井手町営住宅北団地2号棟、南団地2号棟耐震補強工事  
図面名称 付近見取図

DATE H24. 10.  
SCALE --

Check  
Charge Dr

D. C. / E. M. / No. D-09 / 26

北団地2号棟

外部仕上表							屋 外
項 目	腰	壁 (柱、梁型を含む)	軒 天	屋 根	バルコニー (1~3階)	そ の 他	
現 況 ・ 撤 去	モルタル金コテ押え 一部 撤去	モルタル金コテ押え (複層仕上塗材) 一部 撤去	モルタル金コテ押え (薄付仕上塗材) 一部 撤去	塔屋 目隠し壁一部撤去	縦樋: VP100φ 一部撤去 フロアドレイン: 鋳鉄製一部撤去		インターロッキングブロック一部撤去 コンクリート縁石一部撤去 雨水排水樹・排水管一部撤去
改 修	外フレーム設置 (耐震補強) 素地のまま	外フレーム設置 (耐震補強) 防水系複層塗材E	スラブ設置 (耐震補強) 外装薄塗材E	塔屋 目隠し壁切断部 アルミ笠木設置	縦樋: VP100φ 新設 ベランダスラブ穿孔の上 鋳鉄製中継ドレイン設置100φ ベランダ排水勾配改修	TVアンテナ移設 耐震補強スラブにフロアドレイン65φ設置 呼び樋VP65φ設置	インターロッキングブロック舗装 コンクリート縁石設置 雨水排水樹・管新設 汚水・雑排水管盛り替え改修 電気設備配線・配管盛り替え改修 仮設駐車場の整備 (位置は付近見取り図による)

南団地2号棟

外部仕上表							屋 外
項 目	腰	壁 (柱、梁型を含む)	軒 天	屋 根	バルコニー (2階)	そ の 他	
現 況 ・ 撤 去	モルタル金コテ押え	モルタル金コテ押え (複層仕上塗材)	モルタル金コテ押え (薄付仕上塗材)	塔屋 目隠し壁一部撤去	モルタル金コテ押え (複層仕上塗材) 一部 撤去 モルタル金コテ押え (薄付仕上塗材) 一部 撤去		
改 修				塔屋 目隠し壁切断部 アルミ笠木設置	袖壁補強設置 (耐震補強)	TVアンテナ移設	



企業組合  
一級建築士事務所 **心とま** 設計

一級建築士登録第187741号 石上圭介  
一級建築士事務所登録(22A) 第00282号

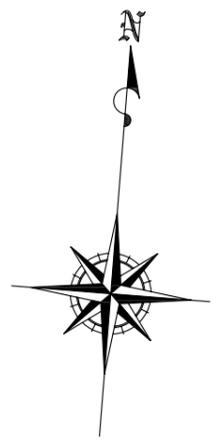
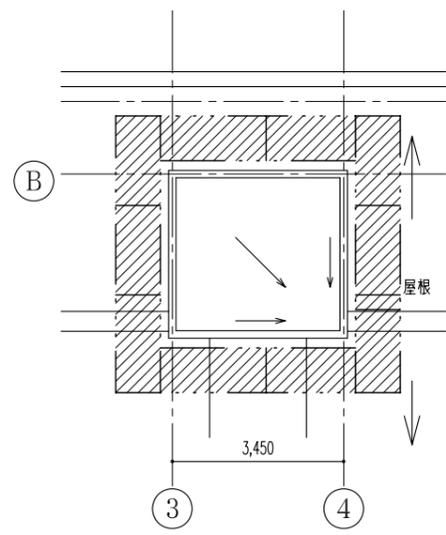
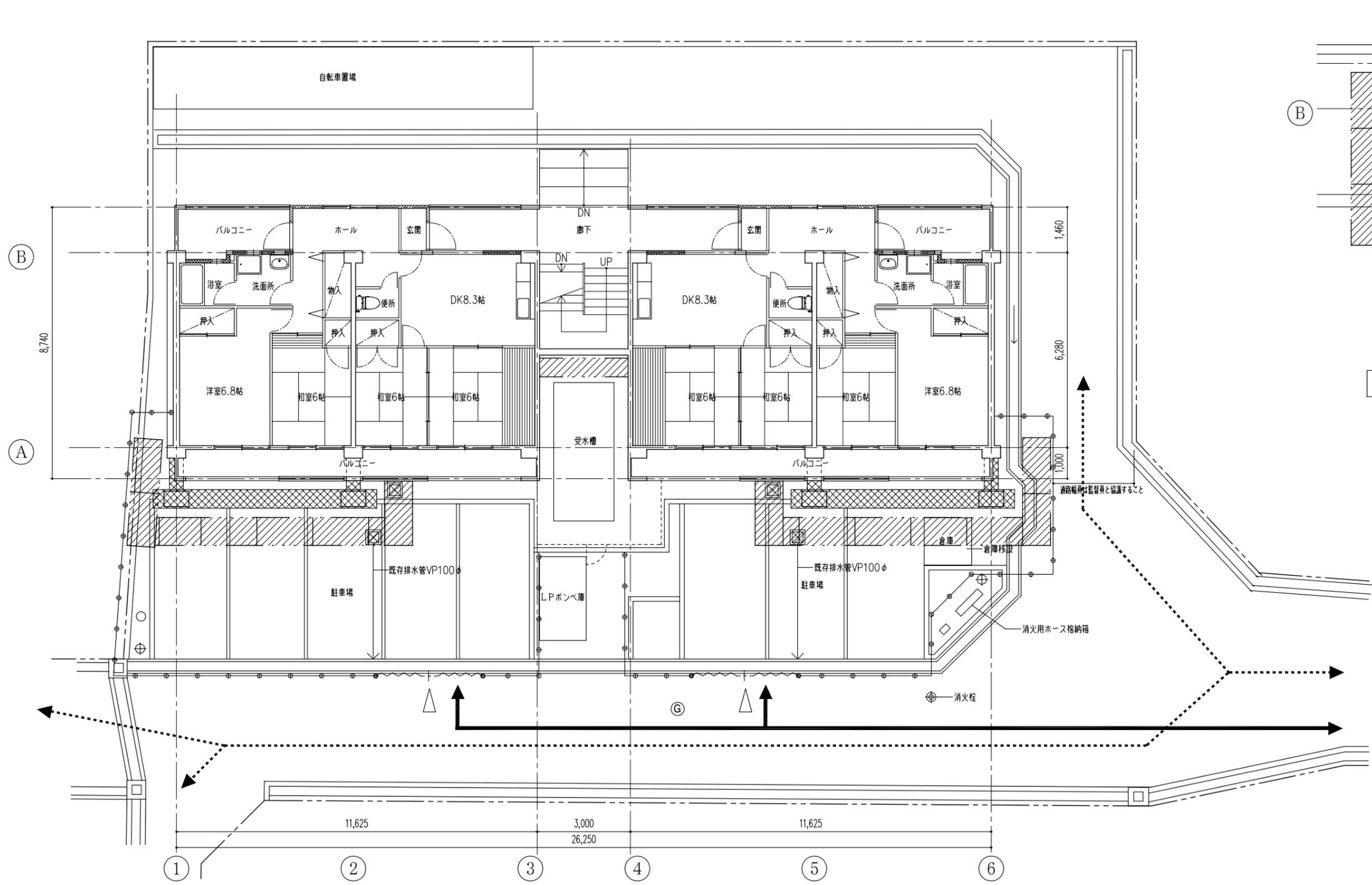
特 記

工事名称 4 同人第3号  
井手町宮住宅北団地2号棟、南団地2号棟耐震補強工事  
図面名称 改修仕上表

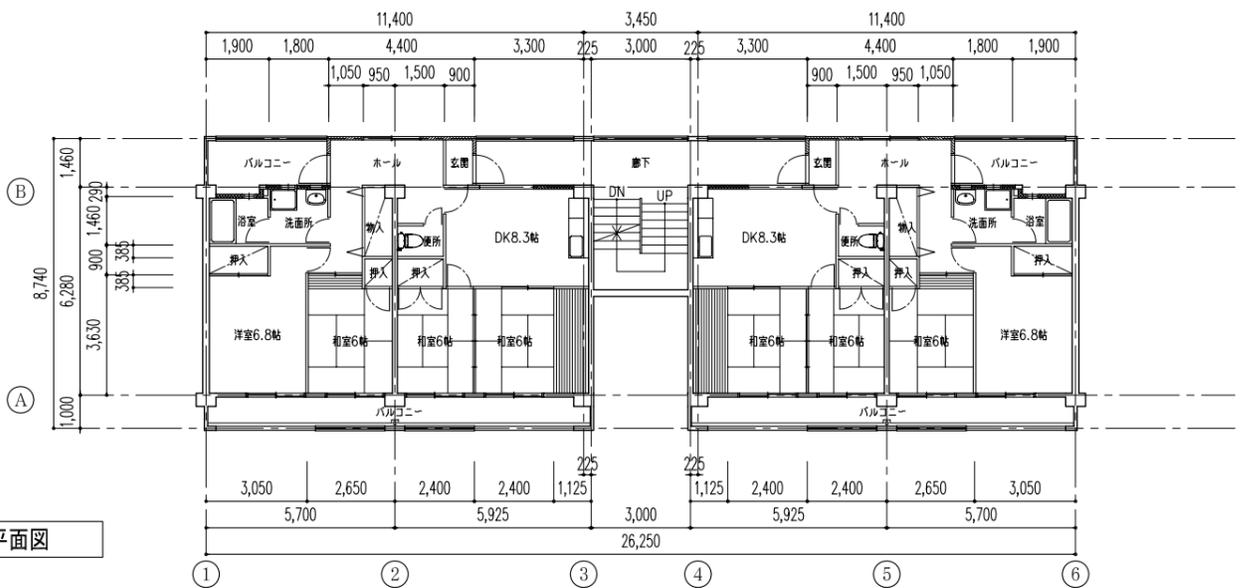
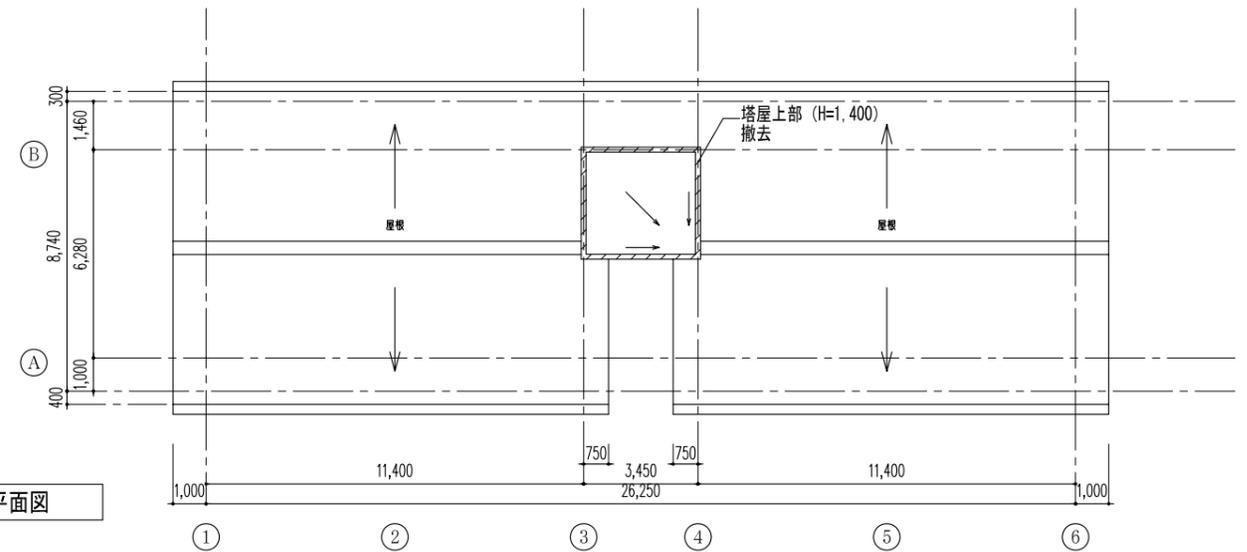
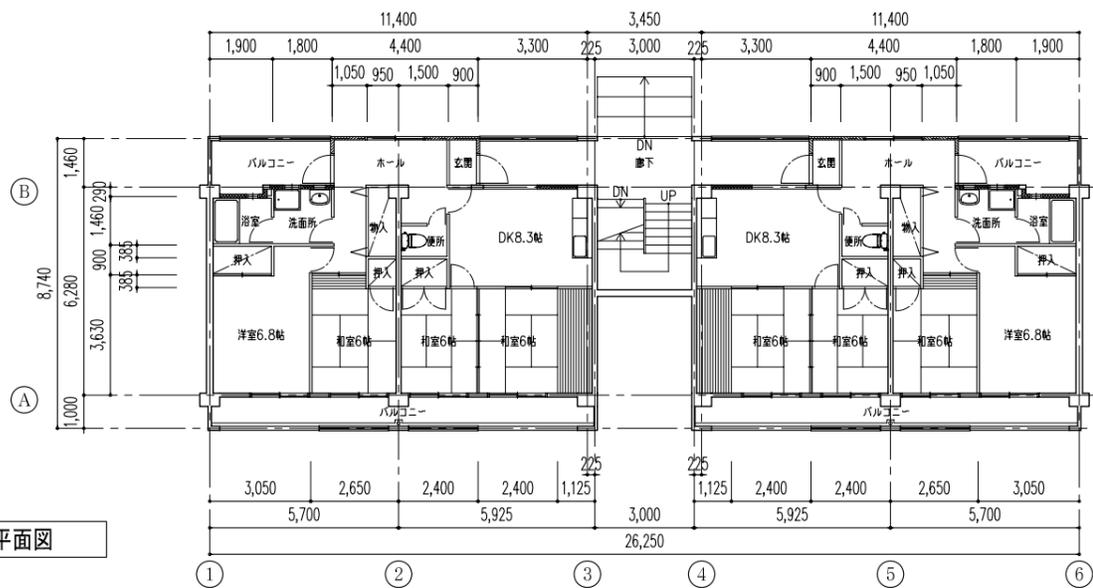
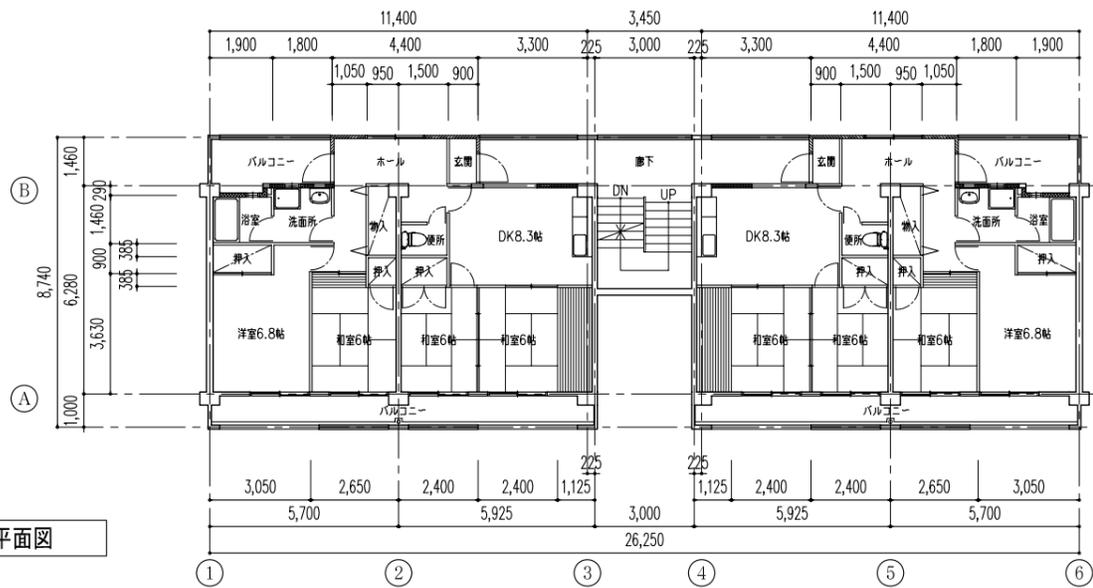
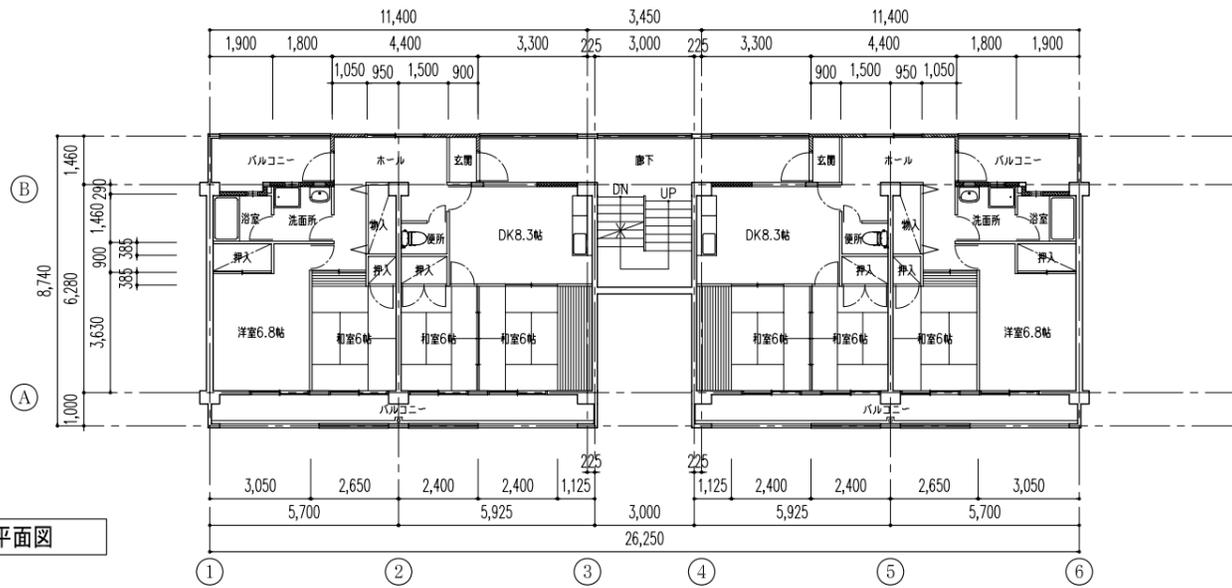
DATE H24. 10.  
SCALL --

Check  
Charge Dr

D. C. / E. M. / No. D-10 / 26



凡 例	
	鋼製足場 (W900 養生シート張り) を示す
	フェンスバリアード (H1800, 目隠しシート) 設置を示す。
	キャスターゲート (W3M×H1.8M基礎支柱なし) を示す
	工事関係者進入口を示す。
	工事搬出入車両通路を示す。
	交通整備員の配置を示す。
	居住者等通路を示す。
注記 仮設位置は監督職員との打合せにより決定すること。	



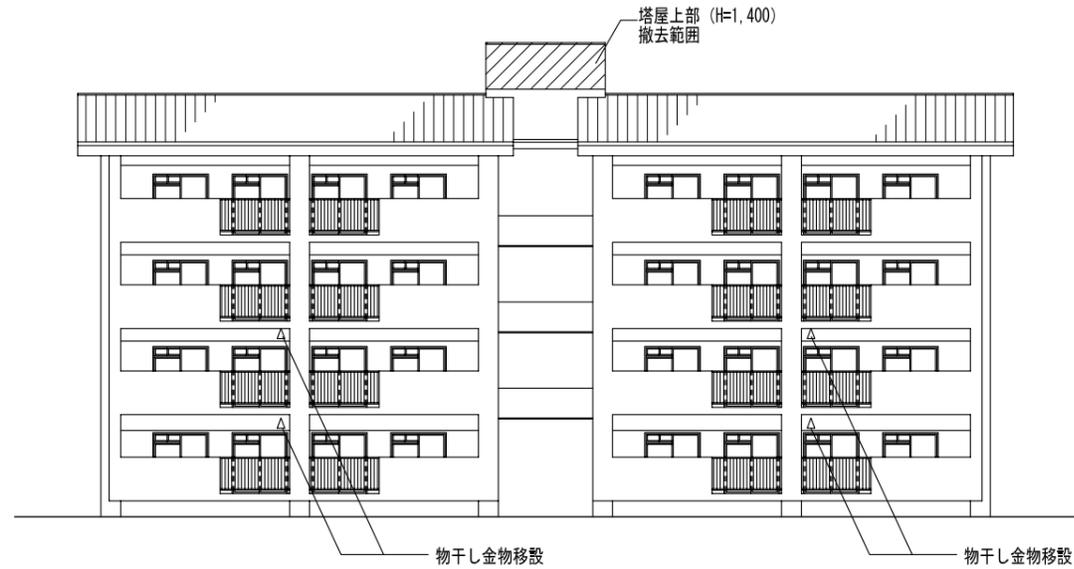
3階現況平面図

2階現況平面図

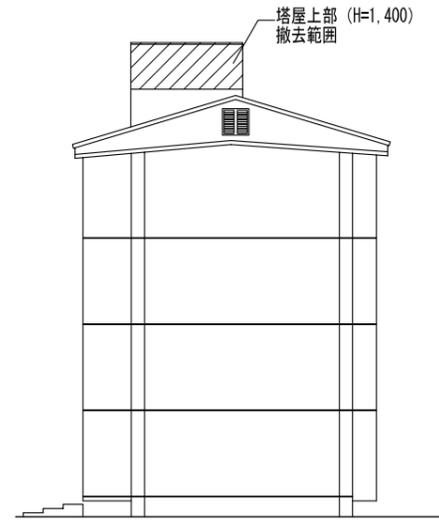
1階現況平面図

R階現況平面図

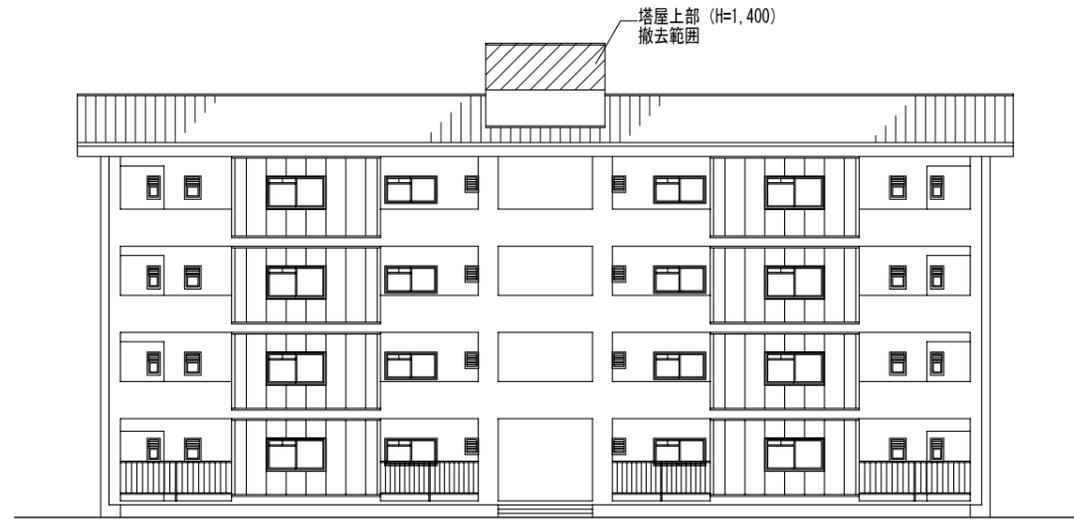
4階現況平面図



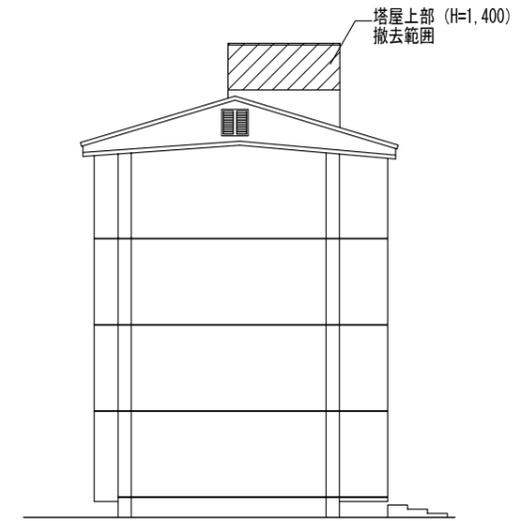
南側現況立面図



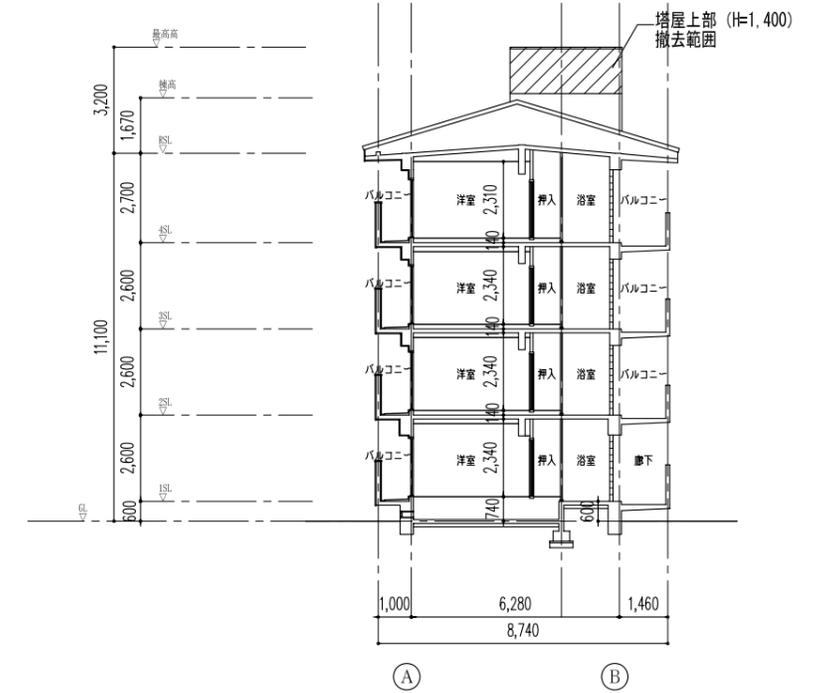
西側現況立面図



北側現況立面図



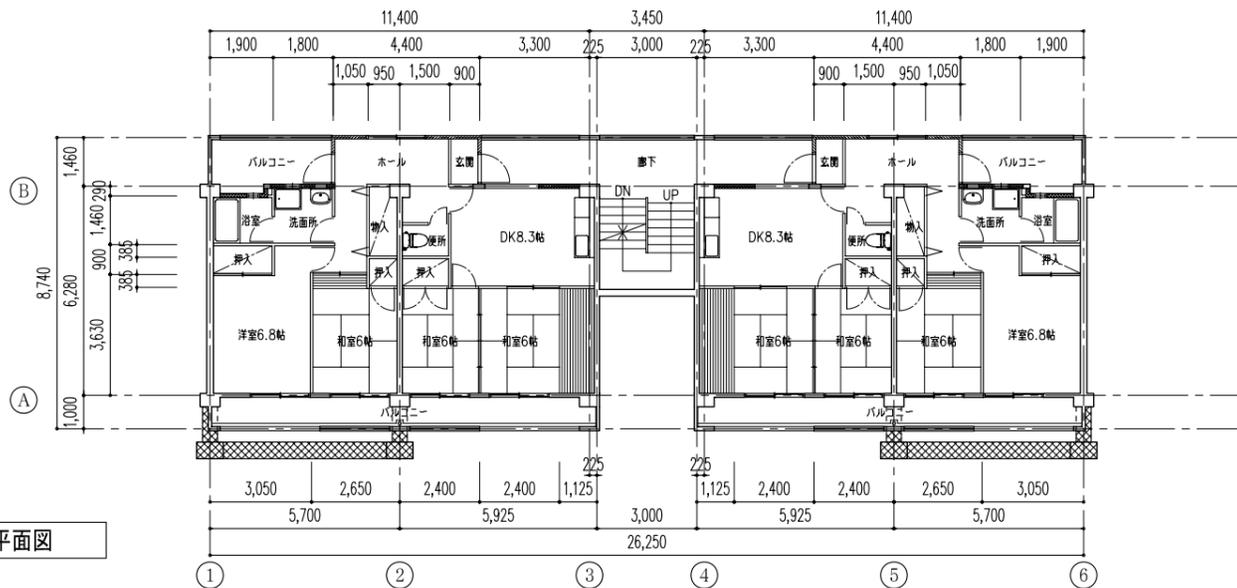
東側現況立面図



現況断面図

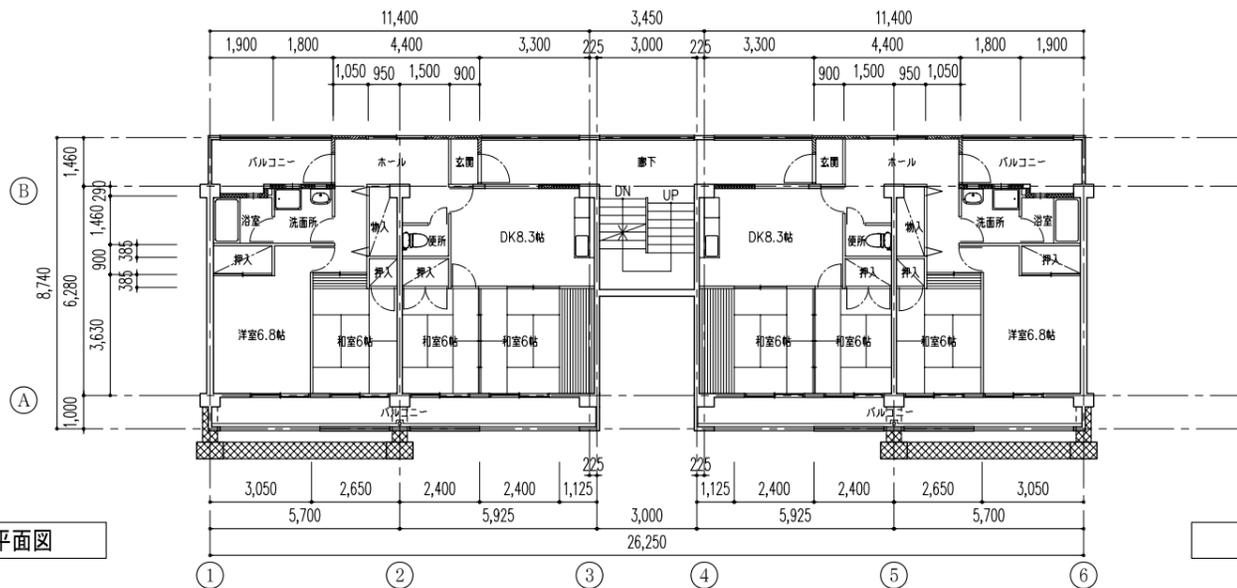


3階改修平面図

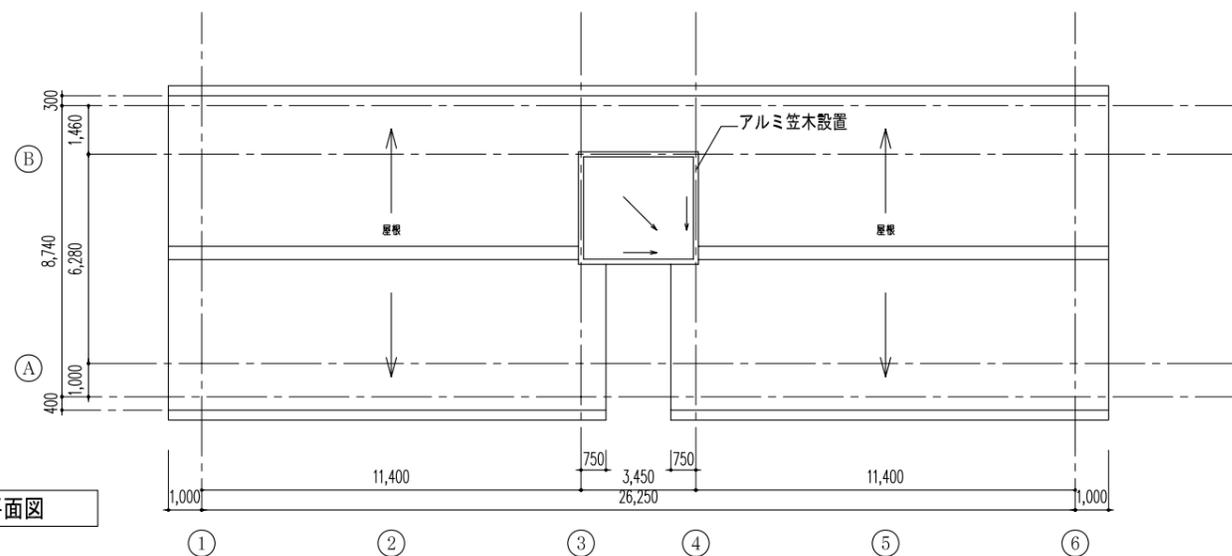


凡例・注記  
 耐震フレーム設置を示す

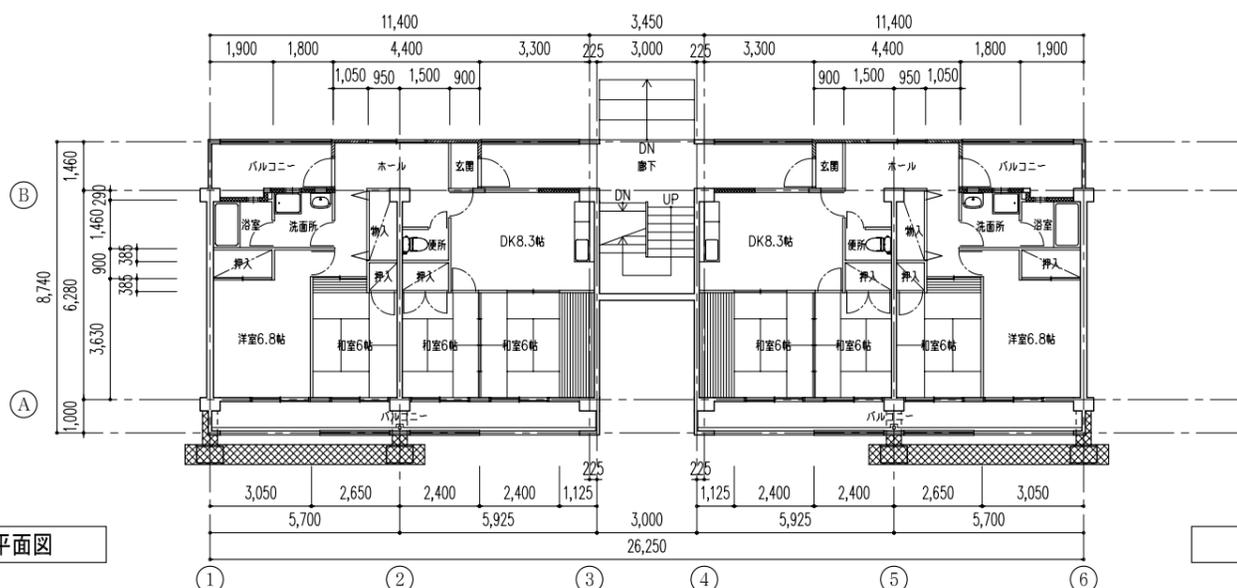
2階改修平面図



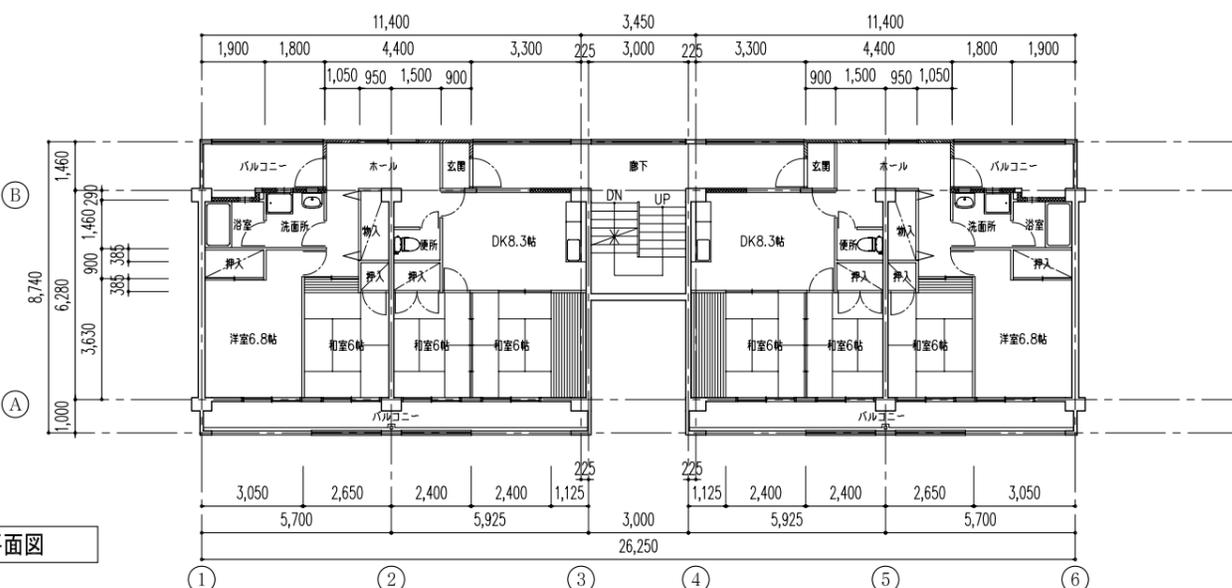
R階改修平面図



1階改修平面図

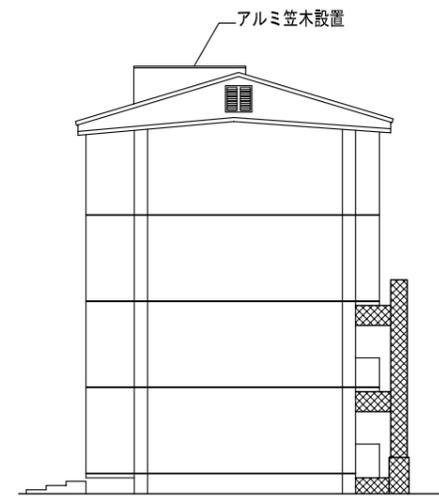


4階改修平面図





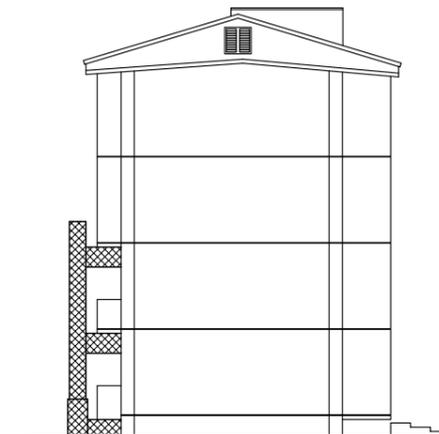
南側改修立面図



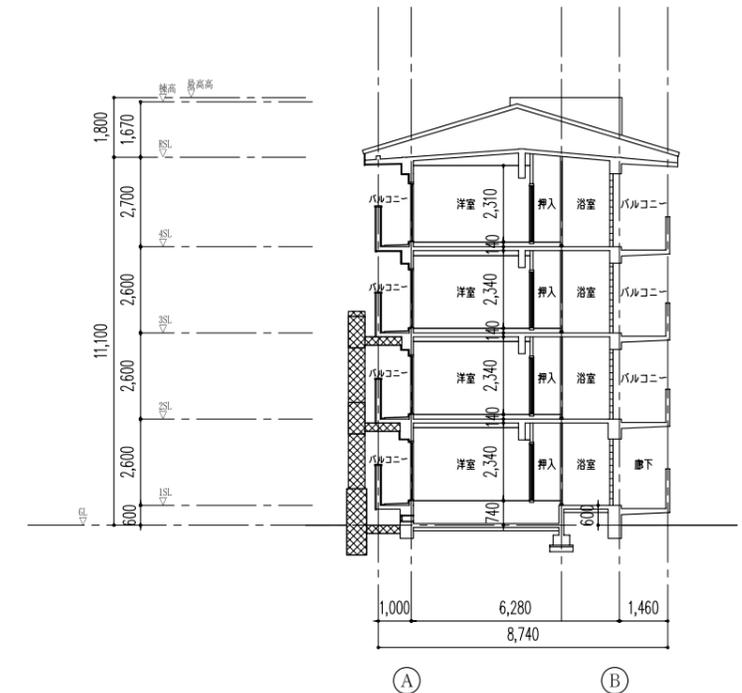
西側改修立面図



北側改修立面図

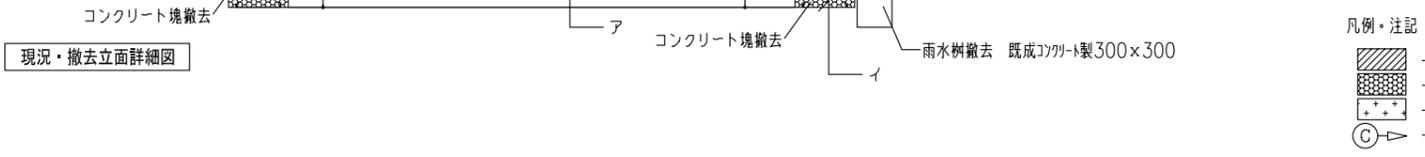
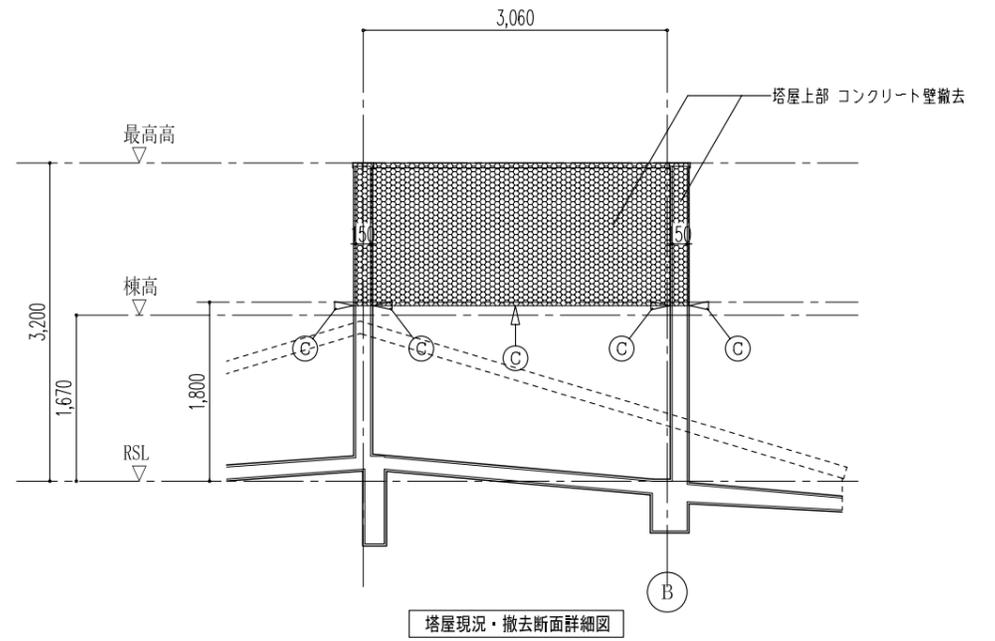
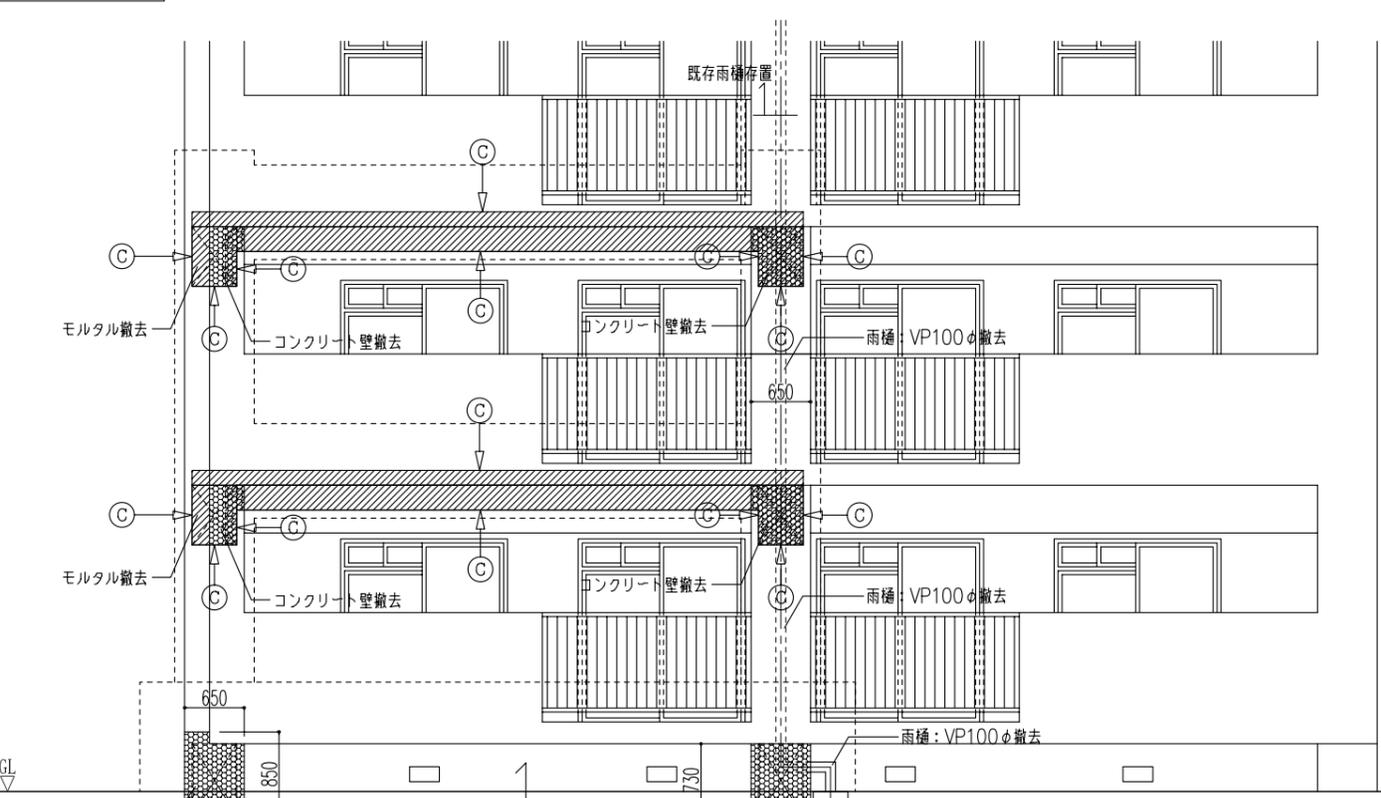
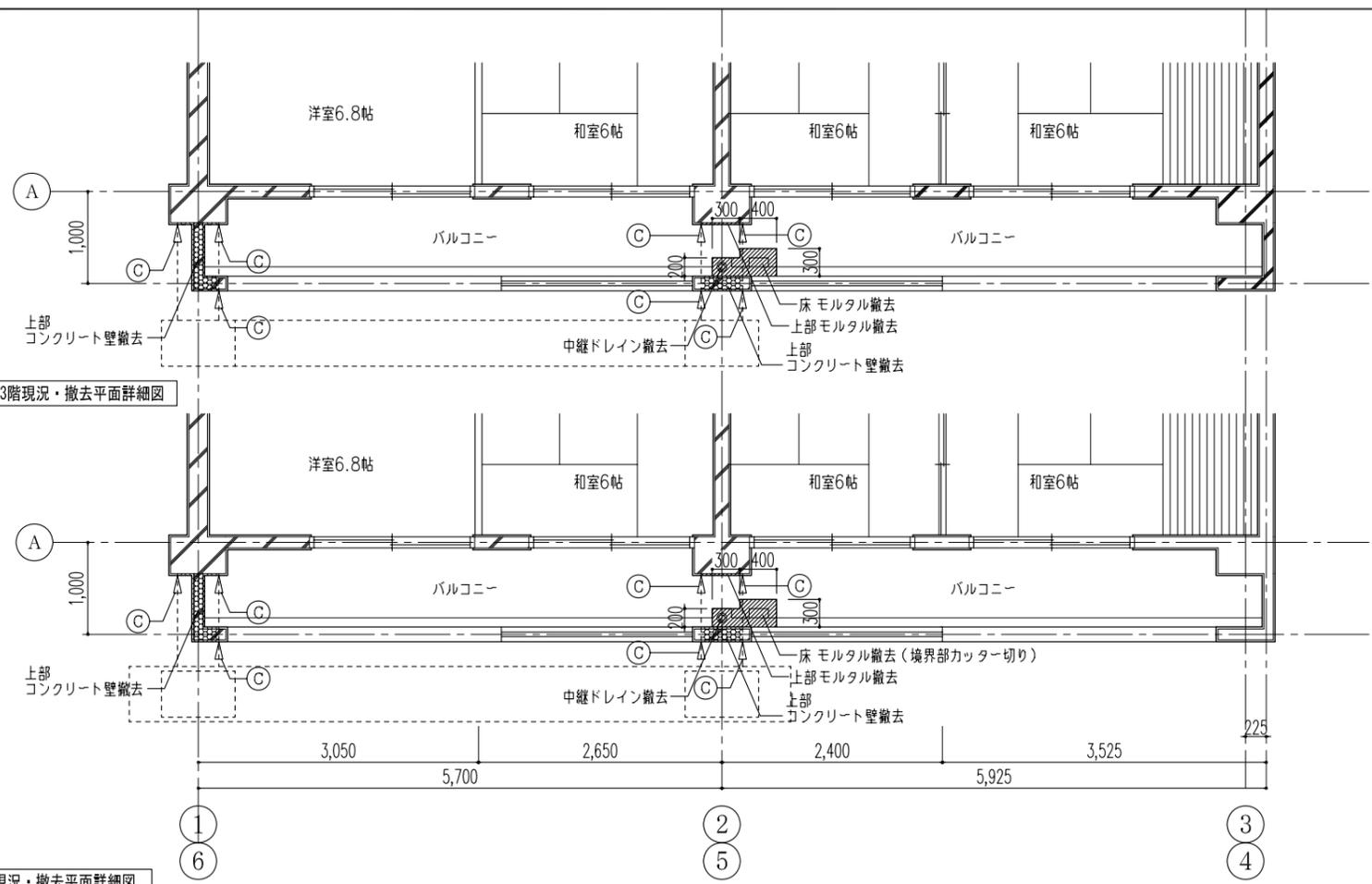


東側改修立面図

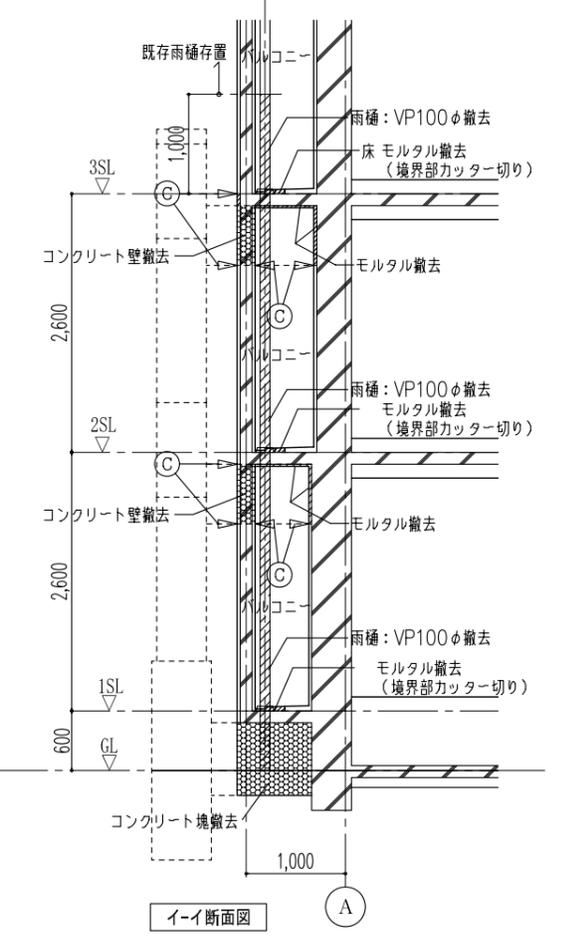
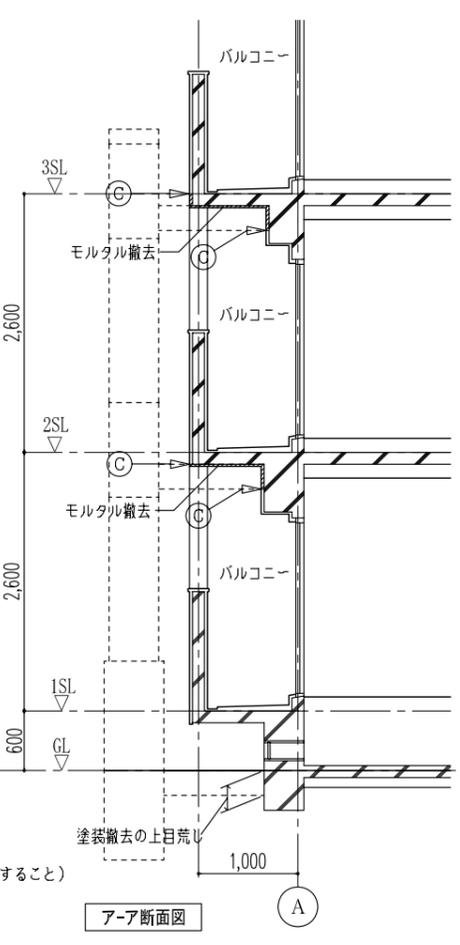


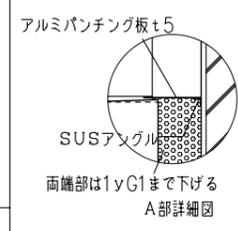
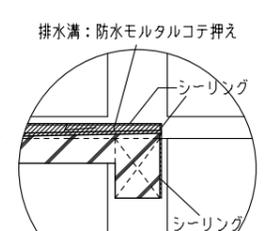
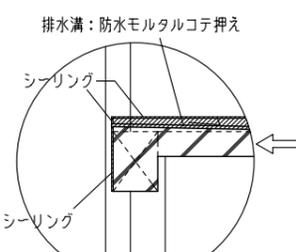
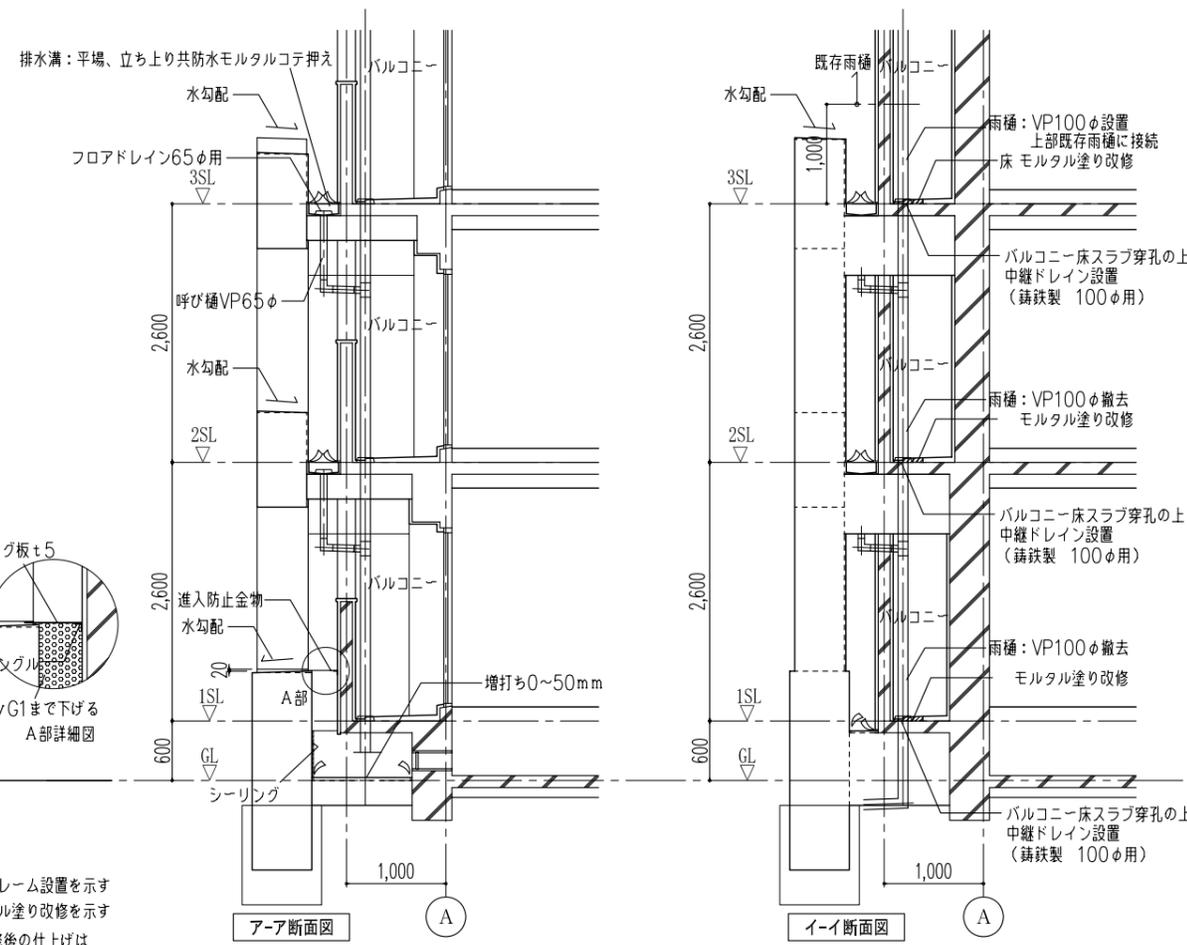
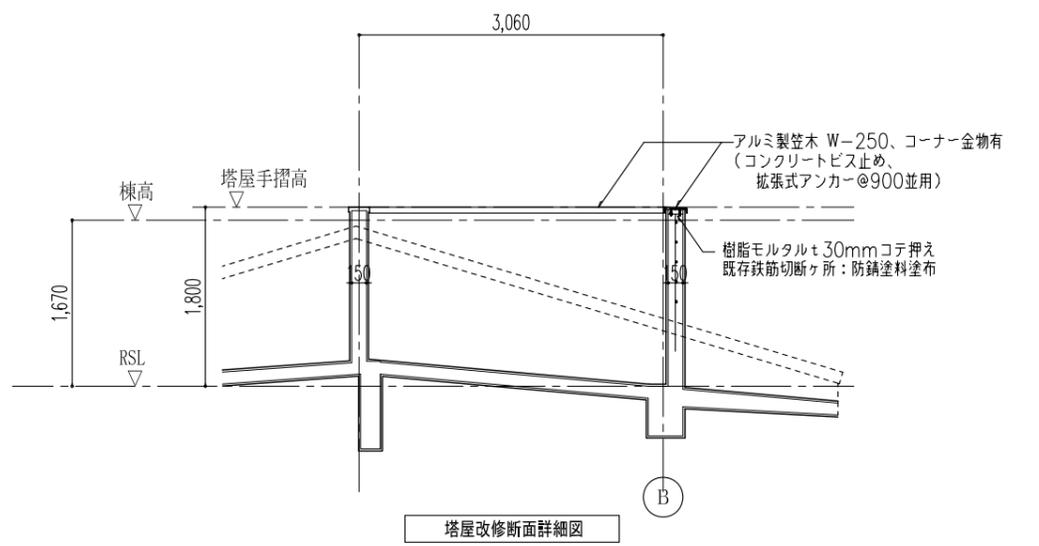
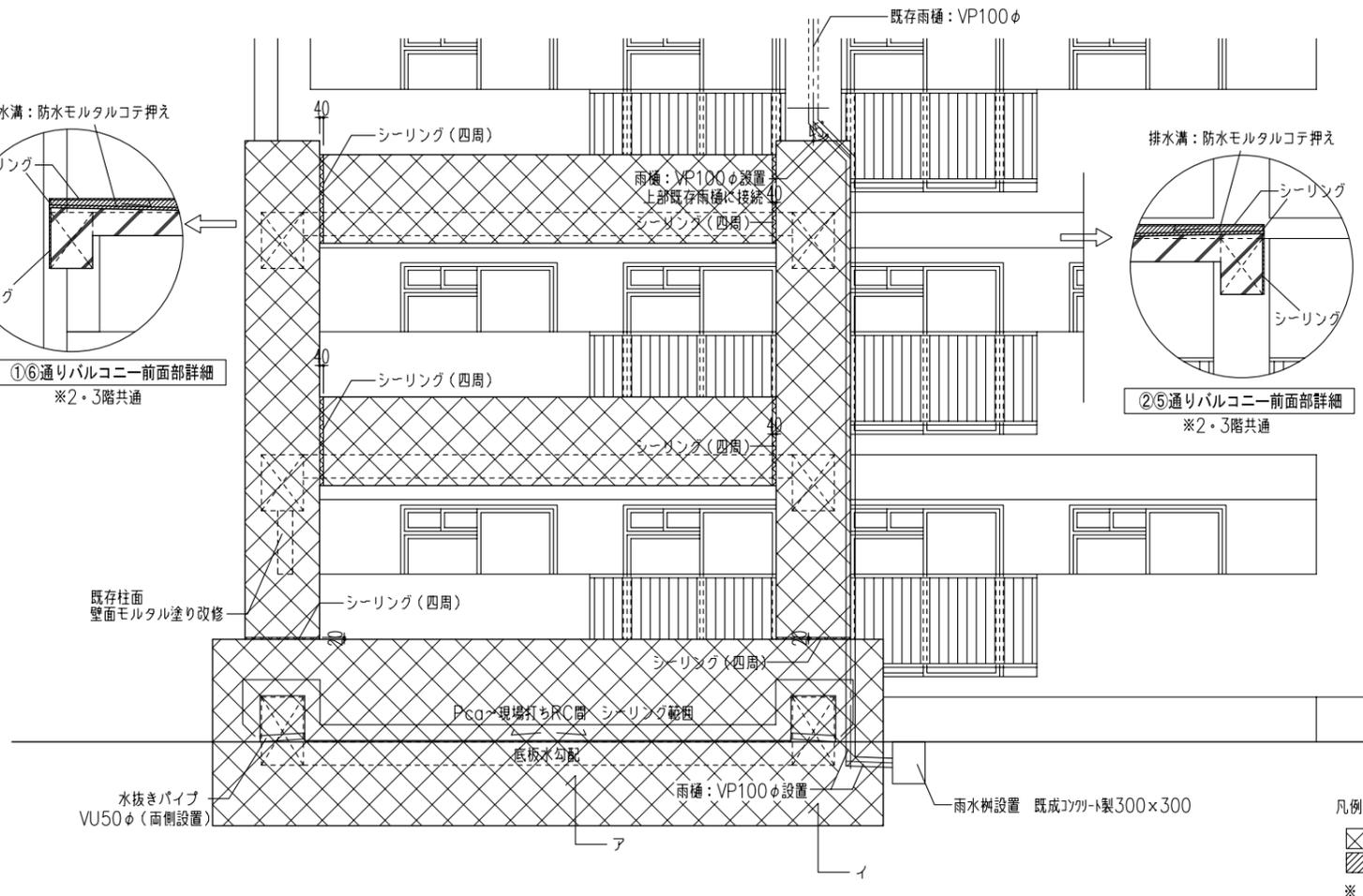
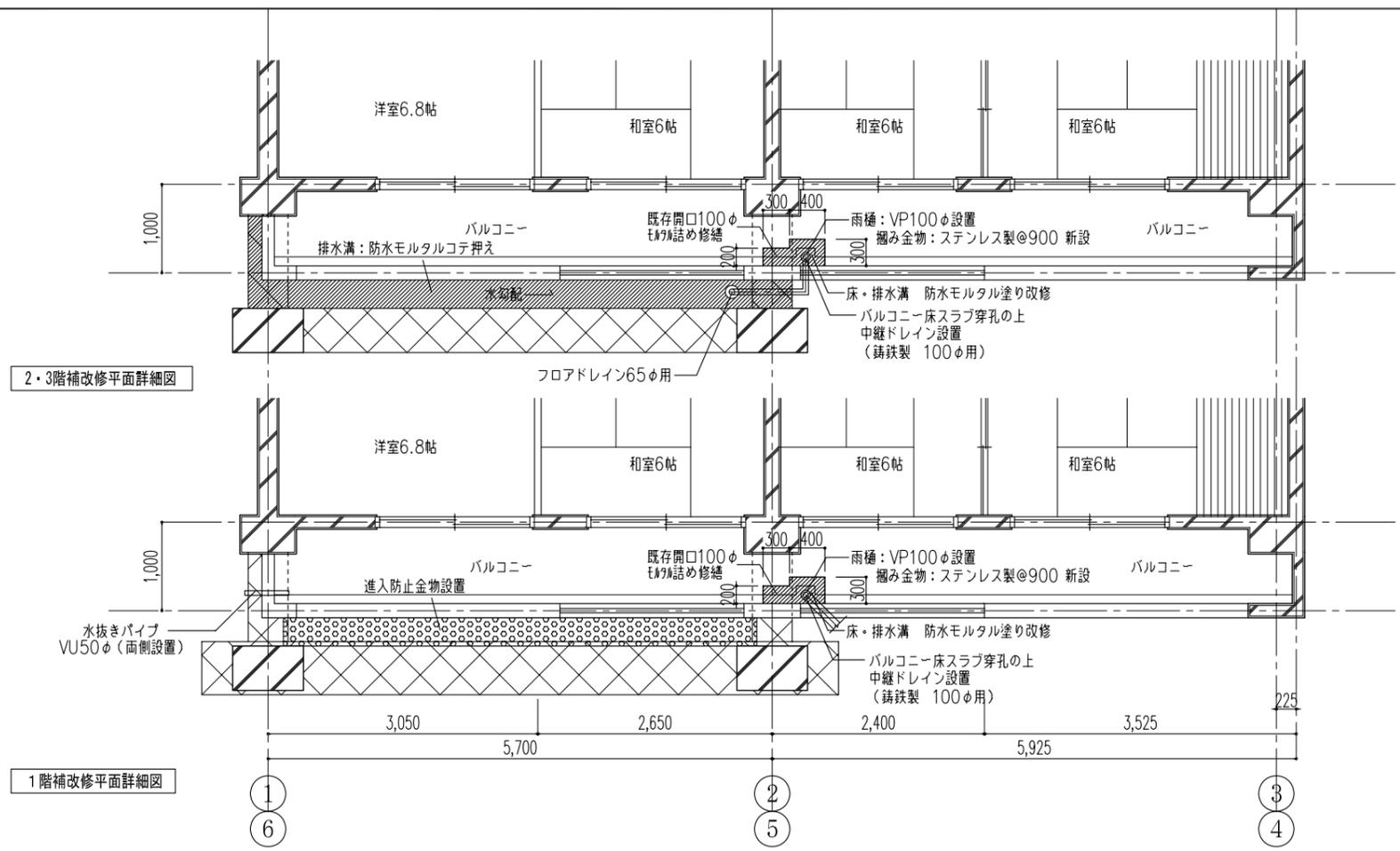
改修断面図

凡例・注記  
 [Cross-hatched box] - 耐震フレーム設置を示す

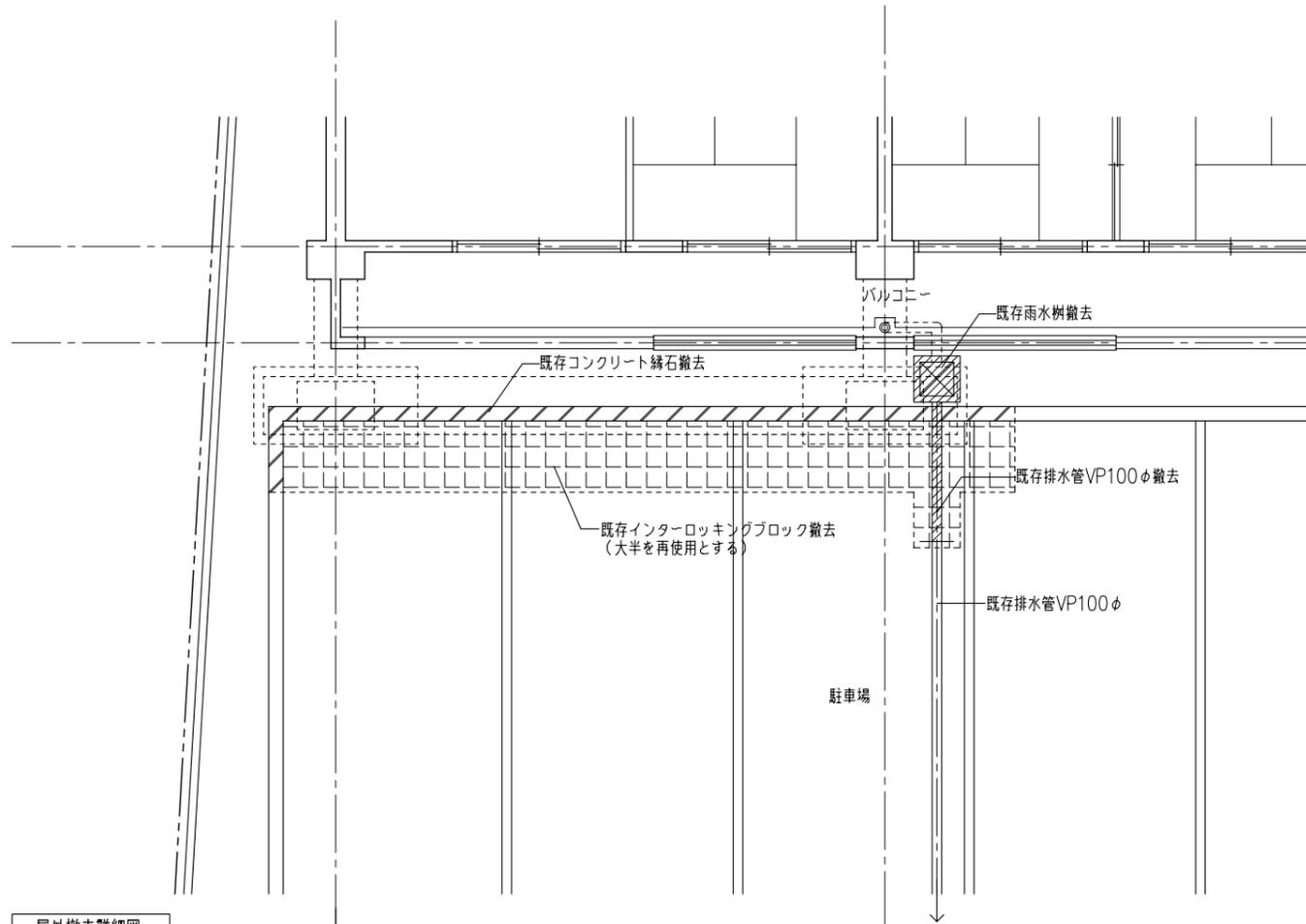


- 凡例・注記
- モルタル撤去を示す
  - コンクリート壁等撤去を示す (鉄筋は存置すること)
  - 塗装撤去の上目荒し
  - カッター切りを示す

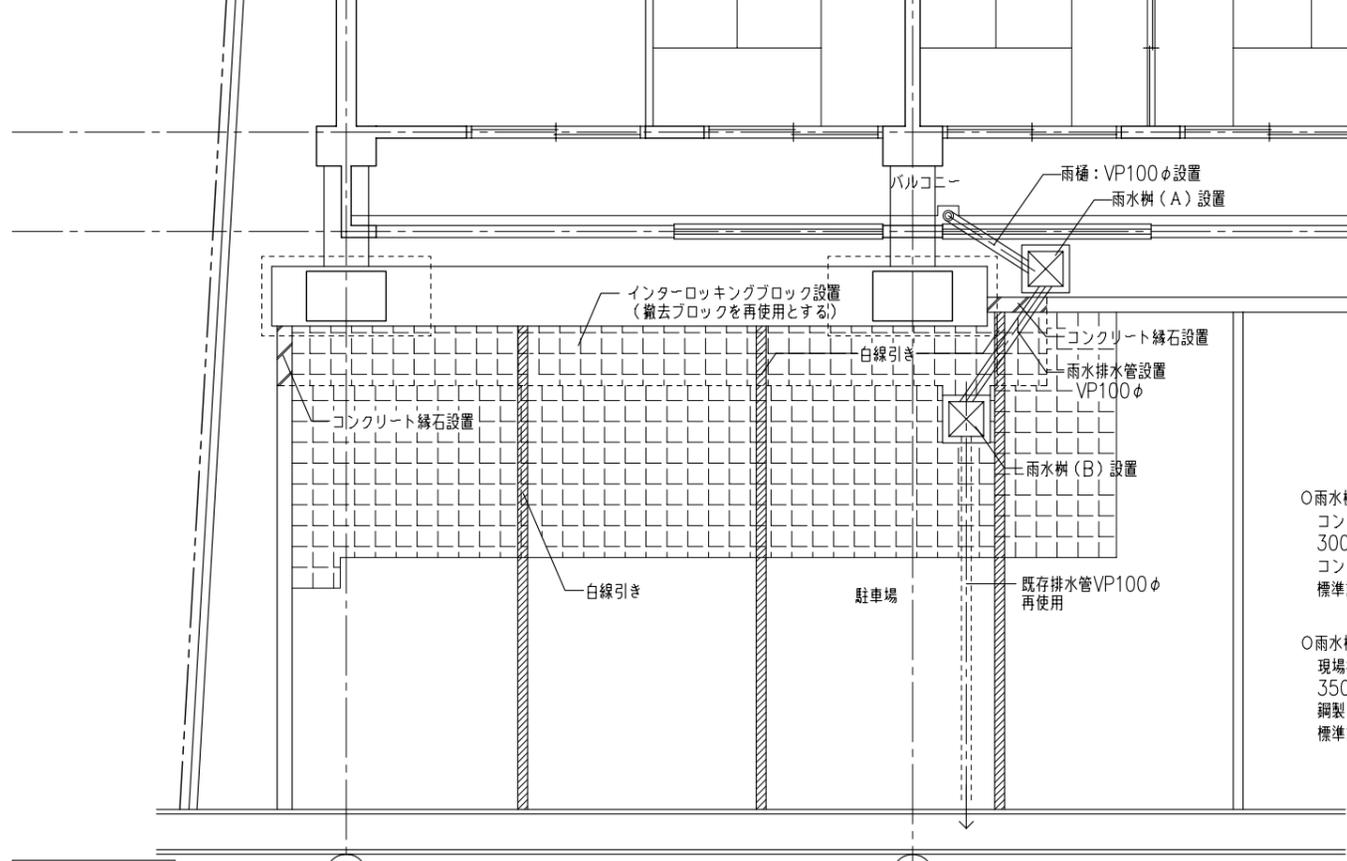
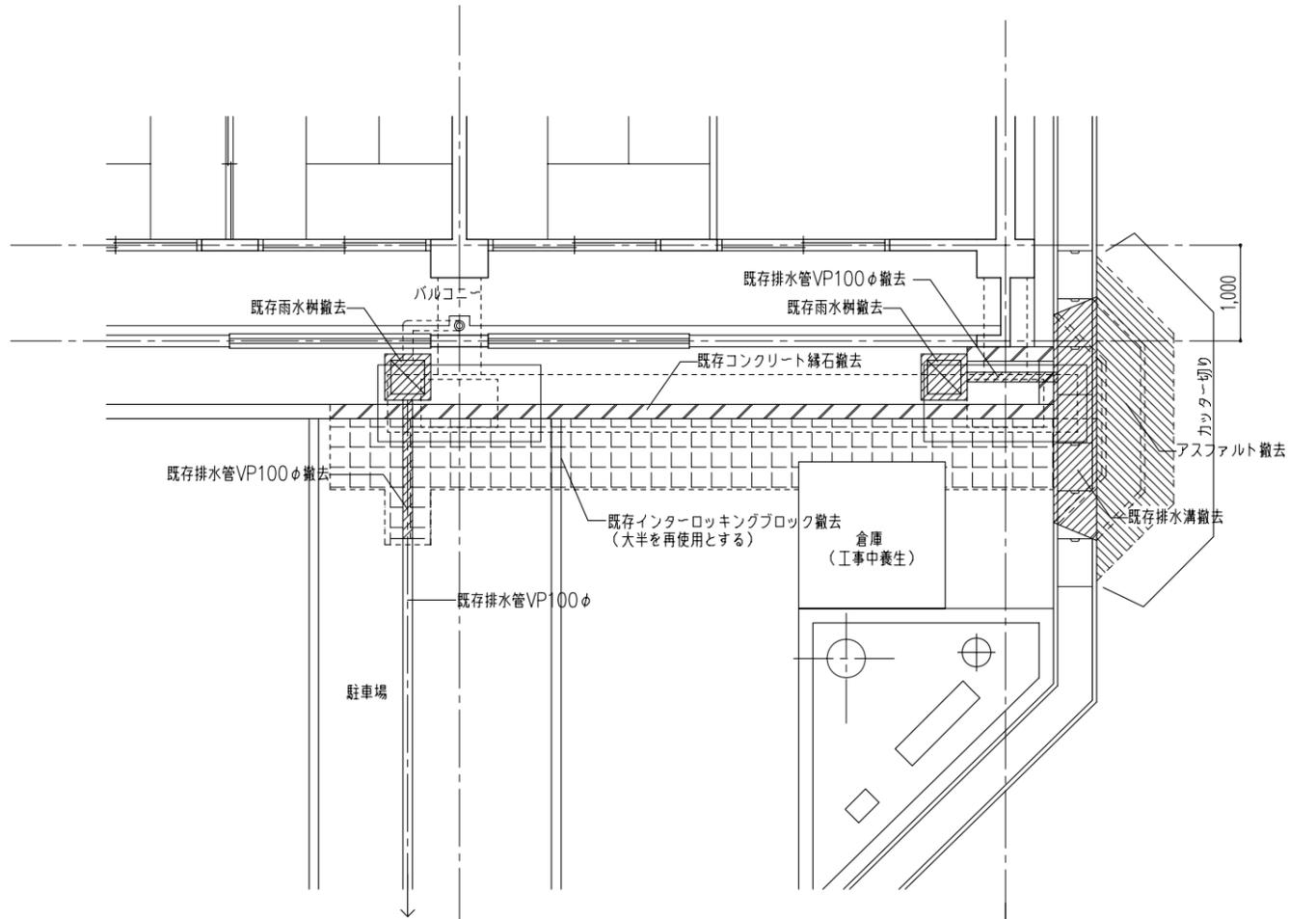




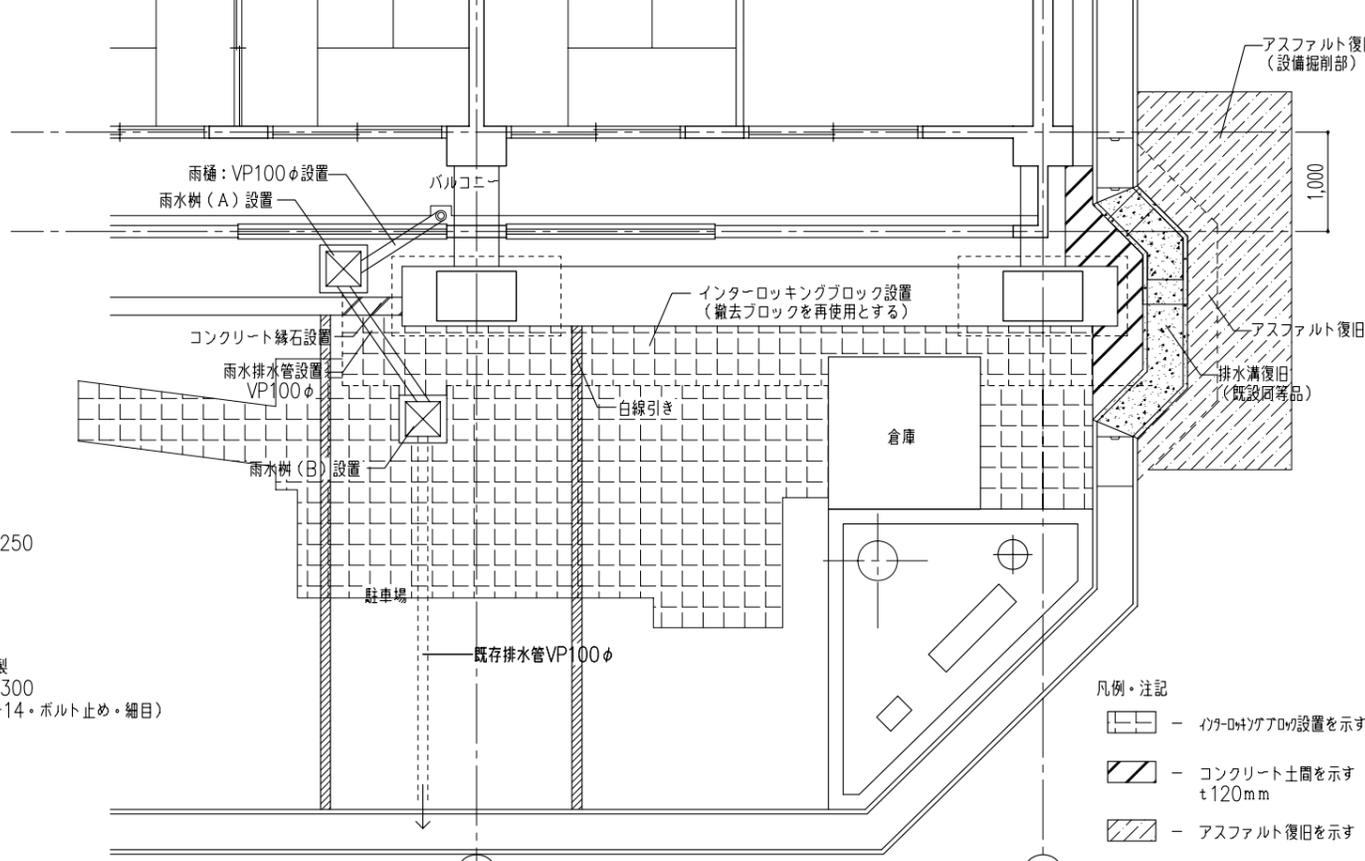
凡例・注記  
 耐震フレーム設置を示す  
 モルタル塗り改修を示す  
 ※ モルタル塗り改修後の仕上げは



屋外撤去詳細図



屋外改修詳細図



- 雨水樹(A)  
 コンクリート既製品  
 300角、流出管底H-250  
 コンクリート既製品  
 標準詳細図9-14-1
- 雨水樹(B)  
 現場打ちコンクリート製  
 350角、流出管底H-300  
 鋼製グレーチング(T-14・ボルト止め・細目)  
 標準詳細図9-14-4

- 凡例・注記
- インターロッキングブロック設置を示す
  - コンクリート土間を示す t120mm
  - アスファルト復旧を示す

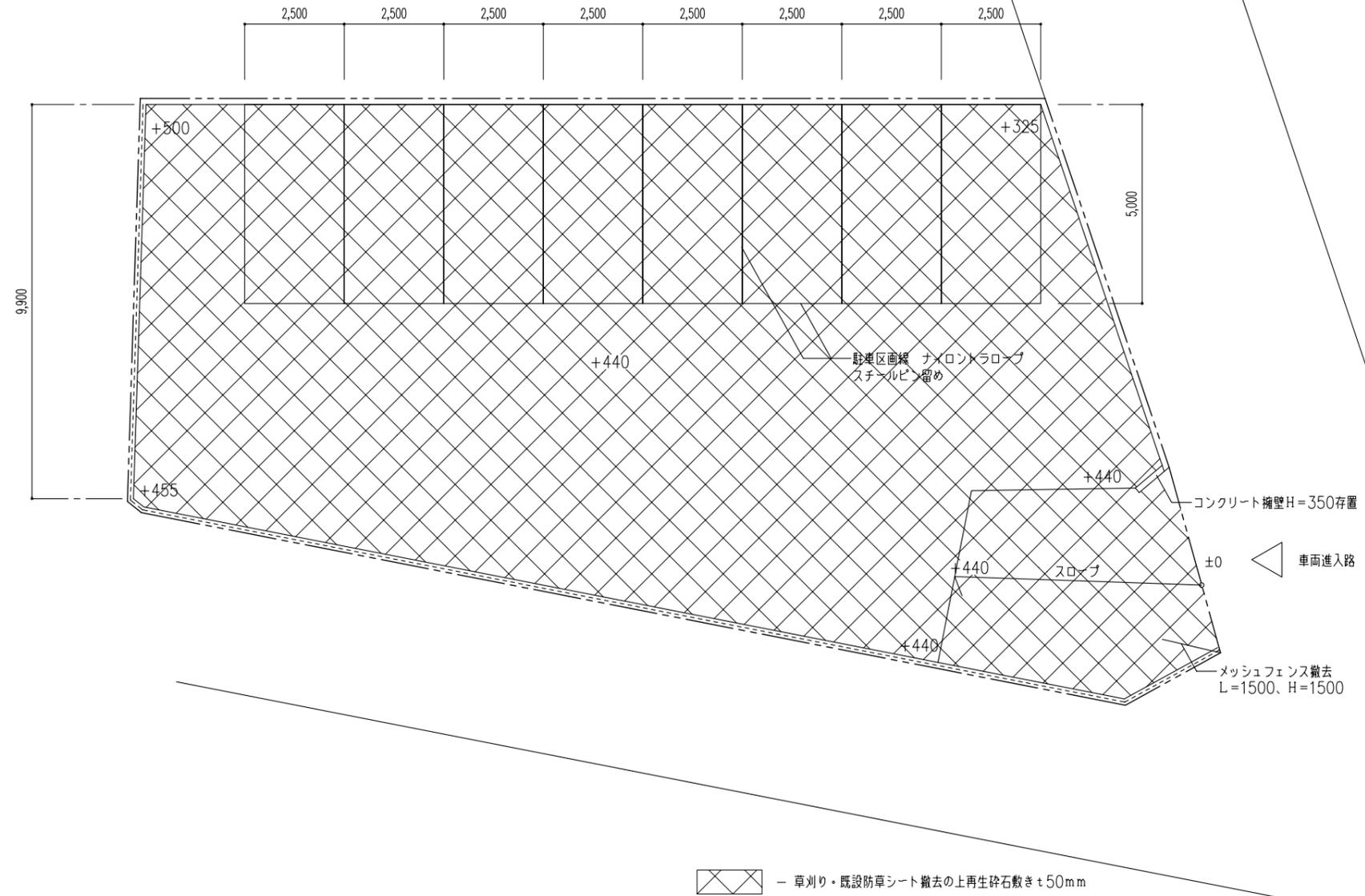
特記

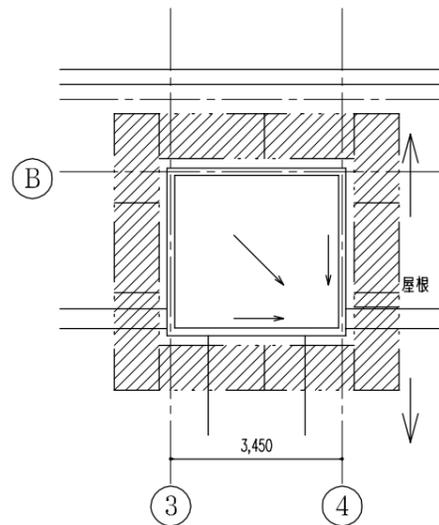
一級建築士登録第187741号 石上圭介  
 一級建築士事務所登録(22A) 第00282号

工事名称 4号棟3号  
 井手町住宅北団地2号棟、南団地2号棟耐震補強工事  
 図面名称 北団地2号棟 屋外撤去・改修詳細図

DATE H24. 10.  
 SCALL 1/50

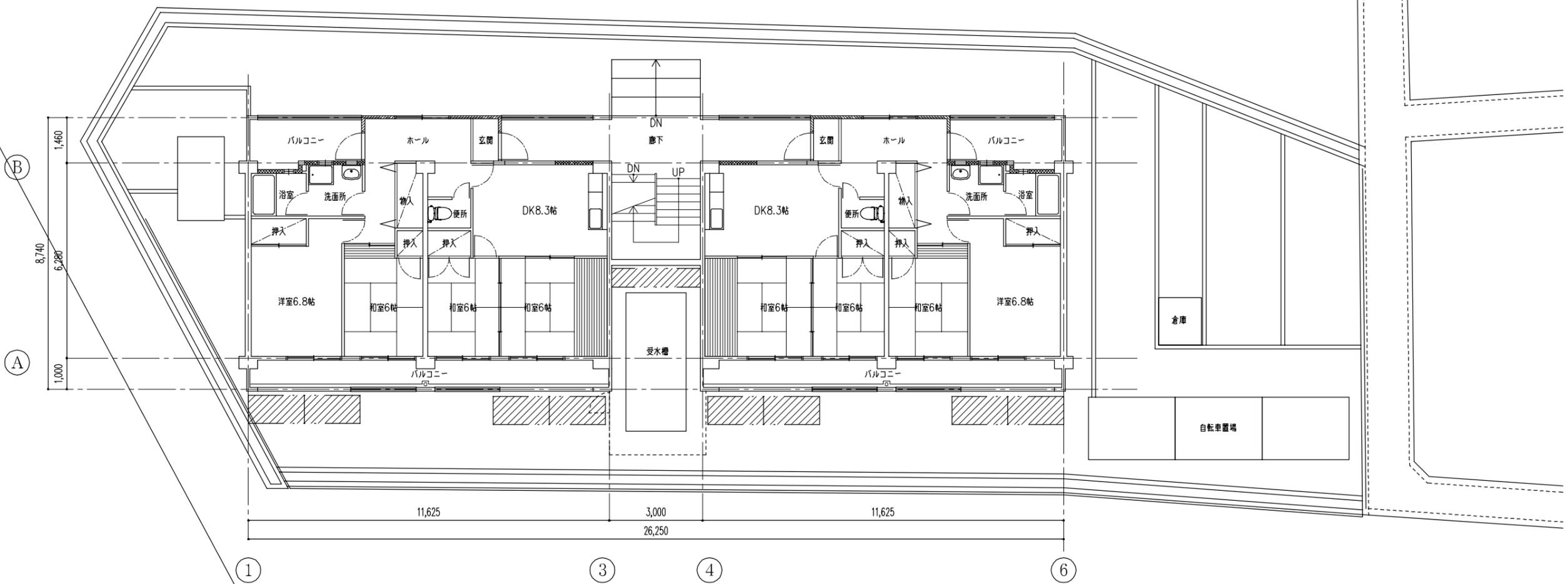
Check Dr. No. D-18/26



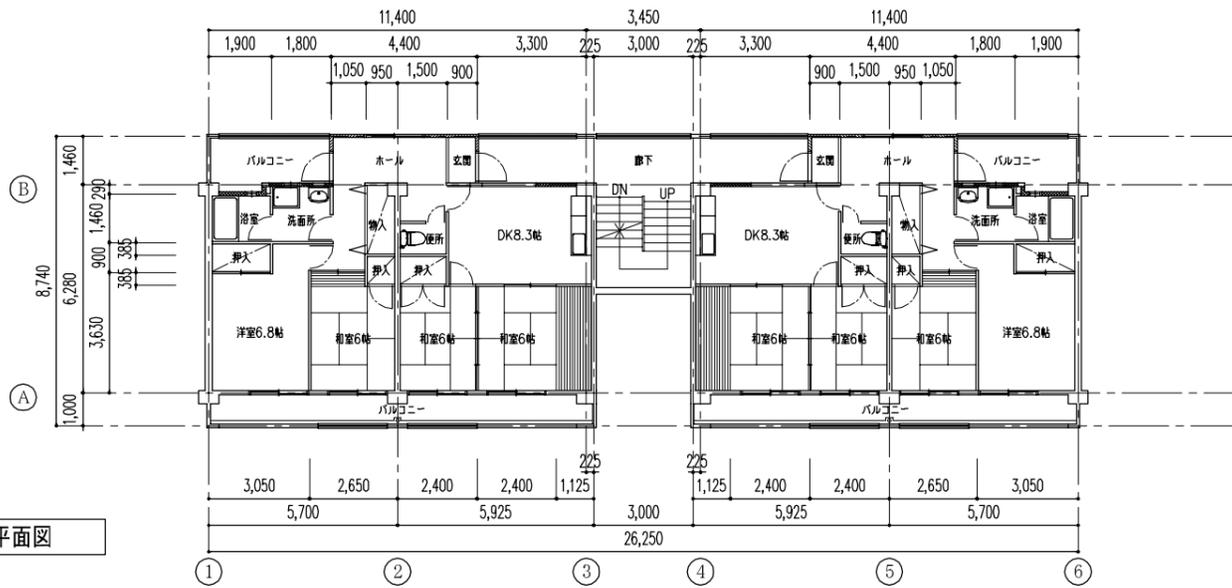


塔屋足場位置を示す

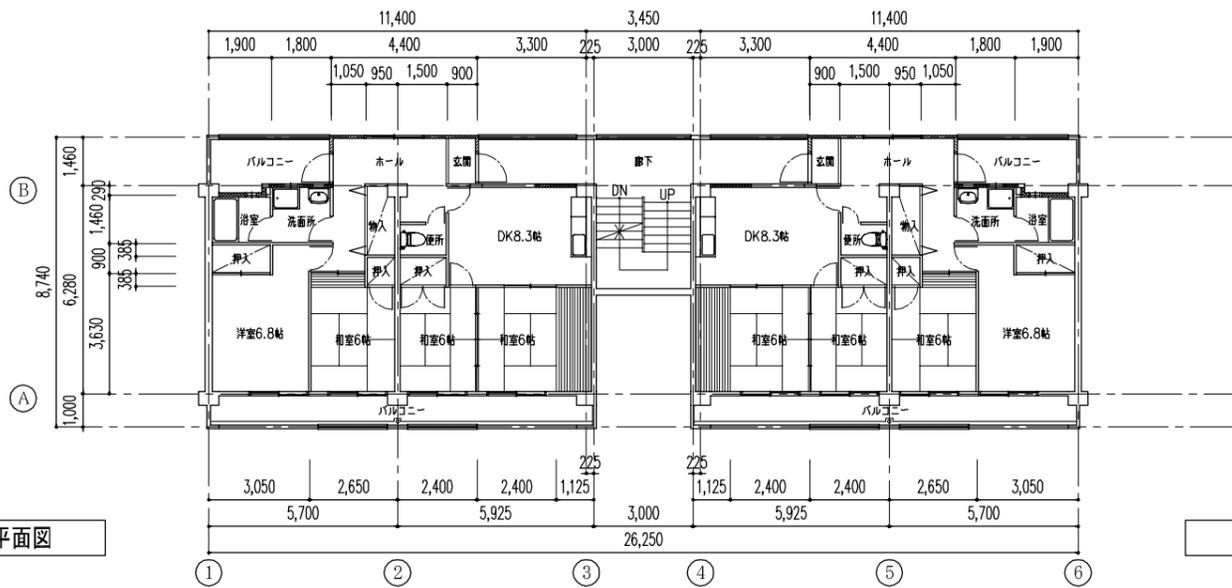
凡 例	
	鋼製足場 (W900 養生シート張り) を示す
注記 仮設位置は監督職員との打合せにより決定すること。	



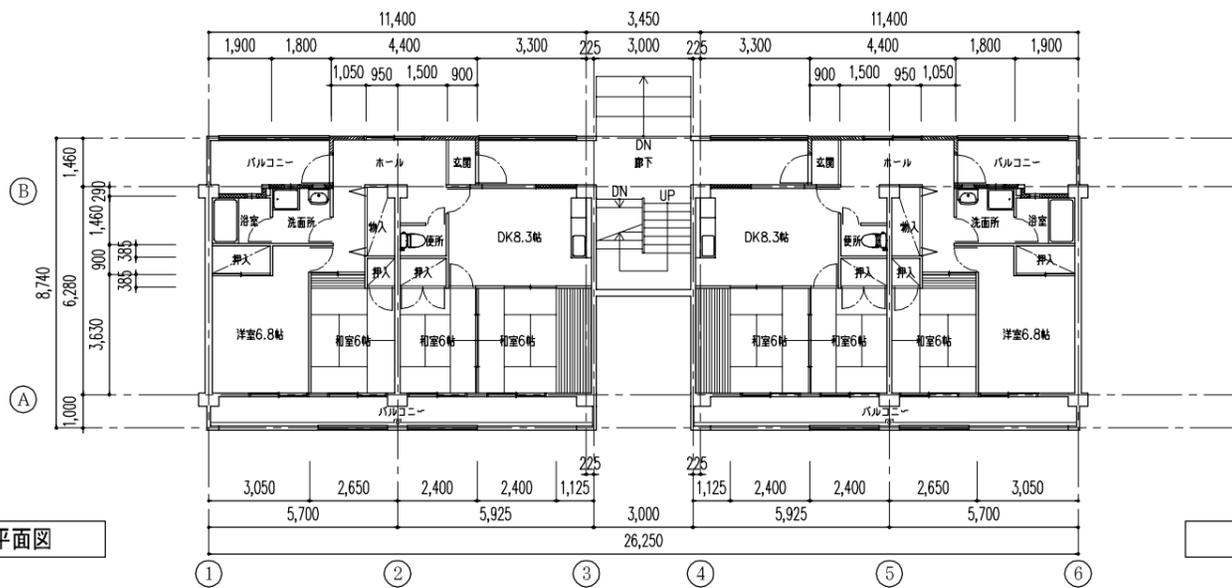
3階現況平面図



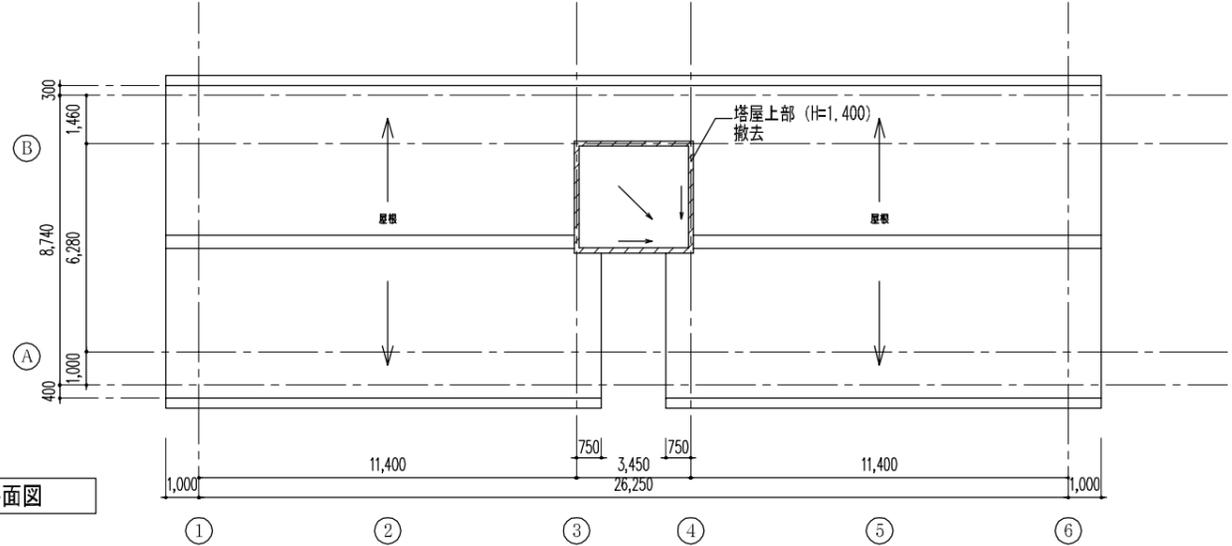
2階現況平面図



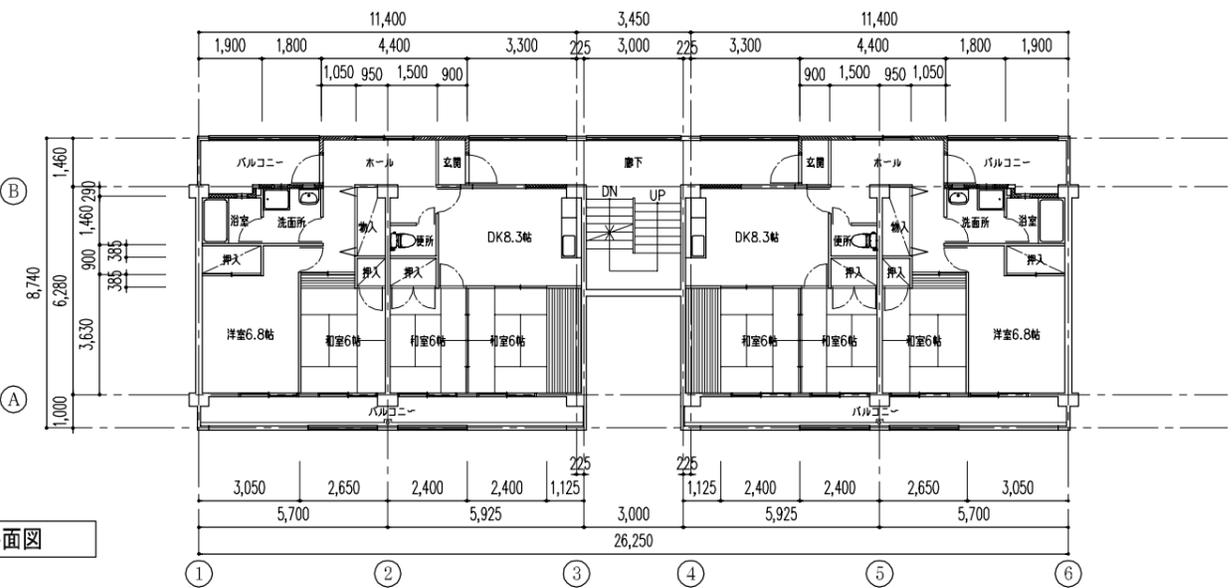
1階現況平面図



屋階現況平面図

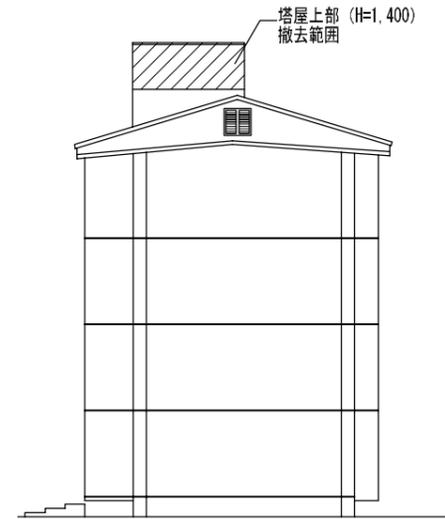


4階現況平面図

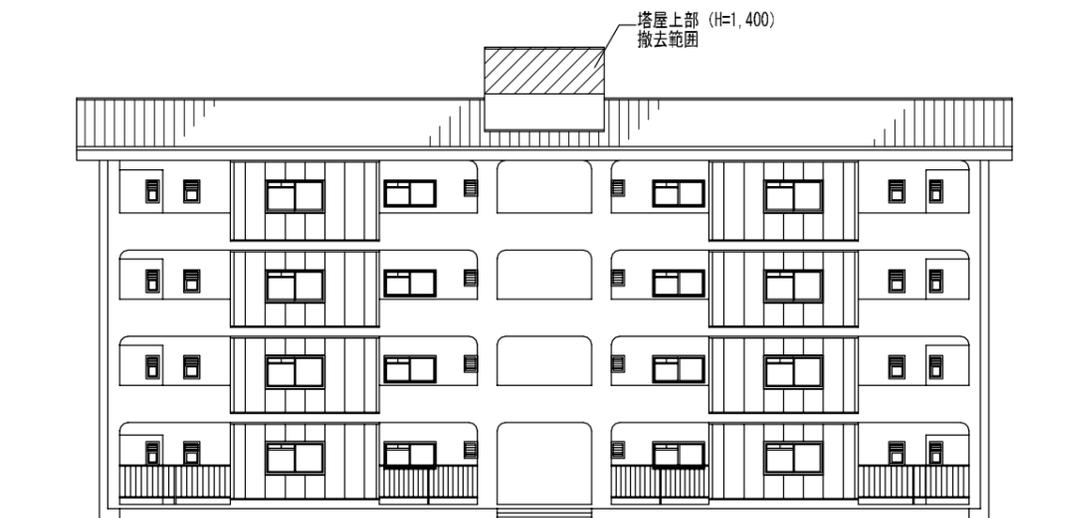




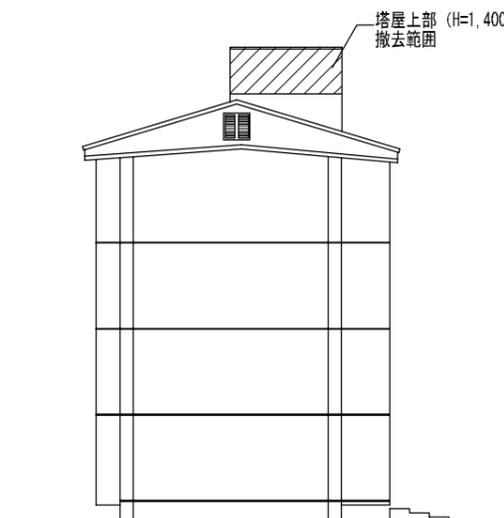
南側現況立面図



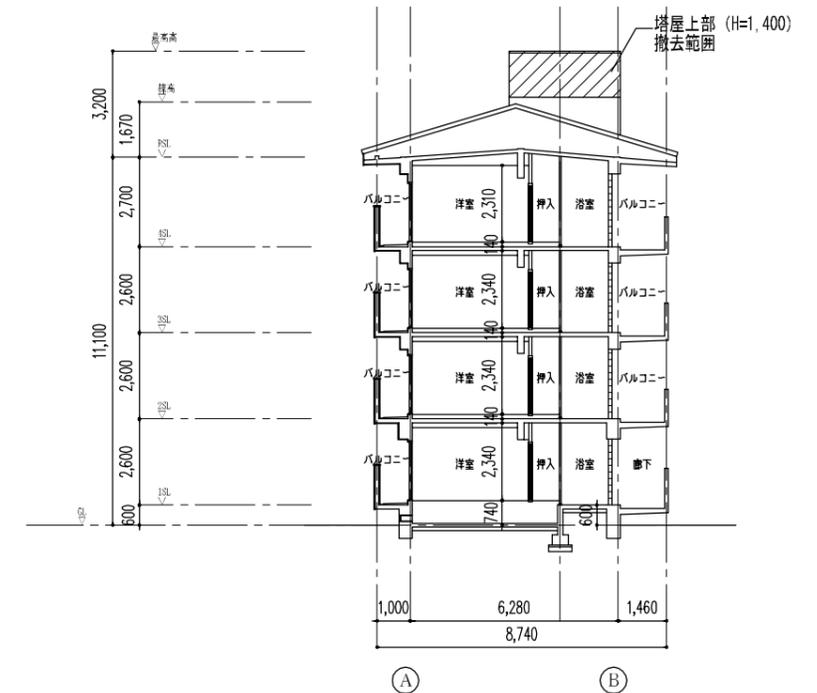
西側現況立面図



北側現況立面図



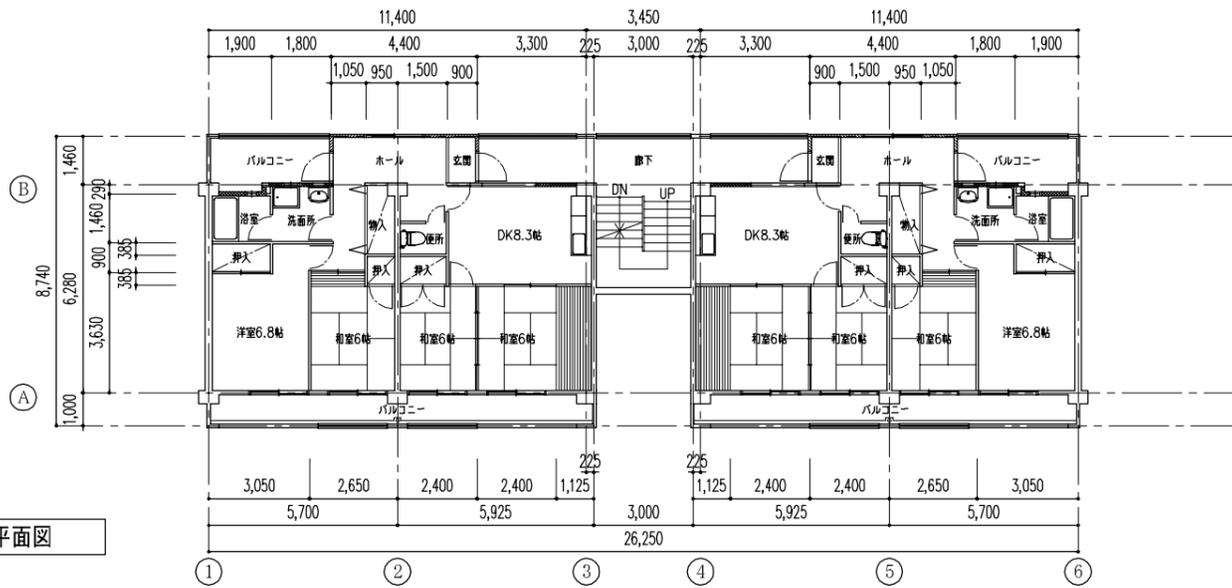
東側現況立面図



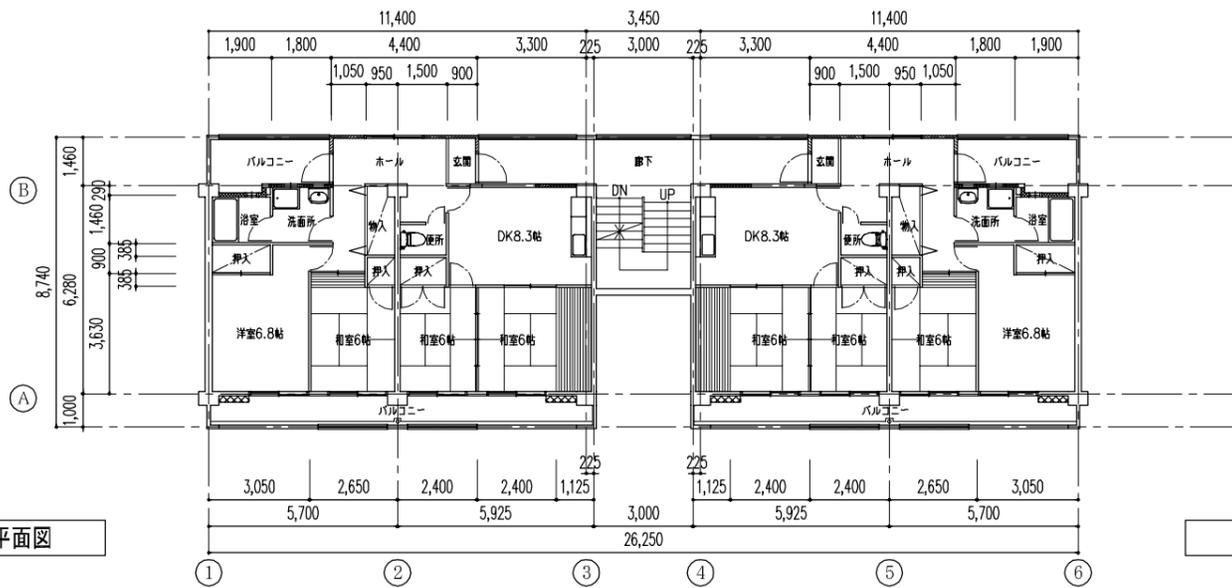
現況断面図



3階改修平面図

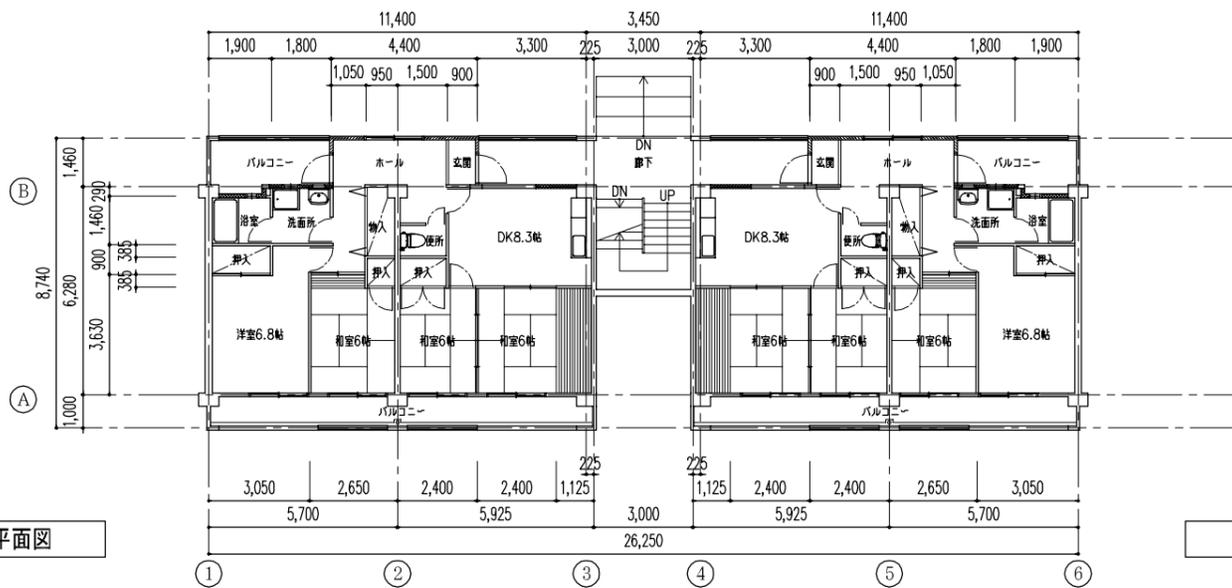


2階改修平面図

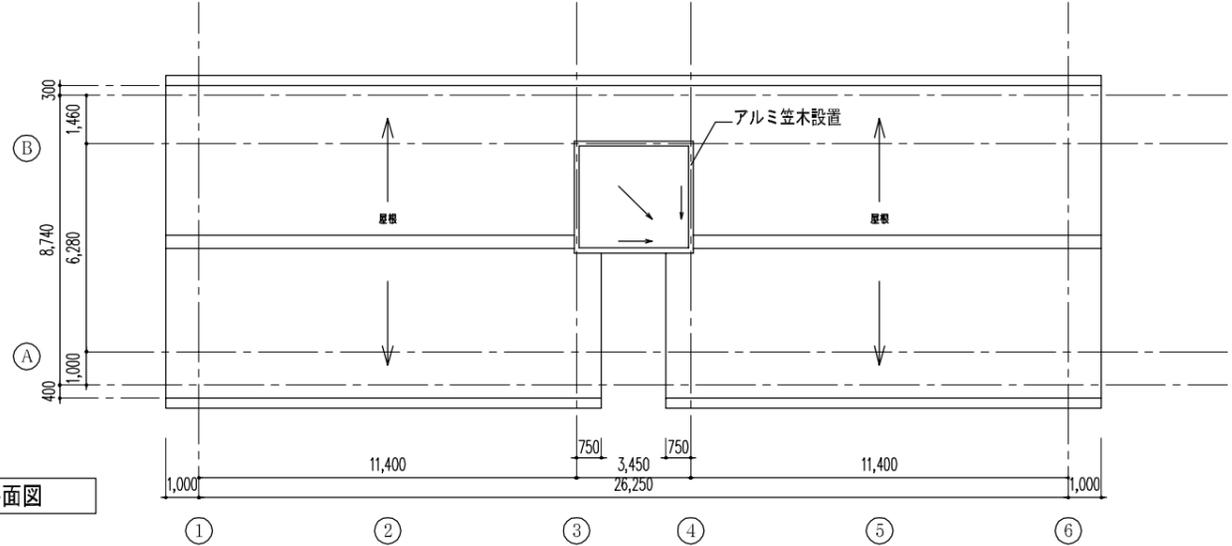


凡例・注記  
 〇 補修箇所を示す

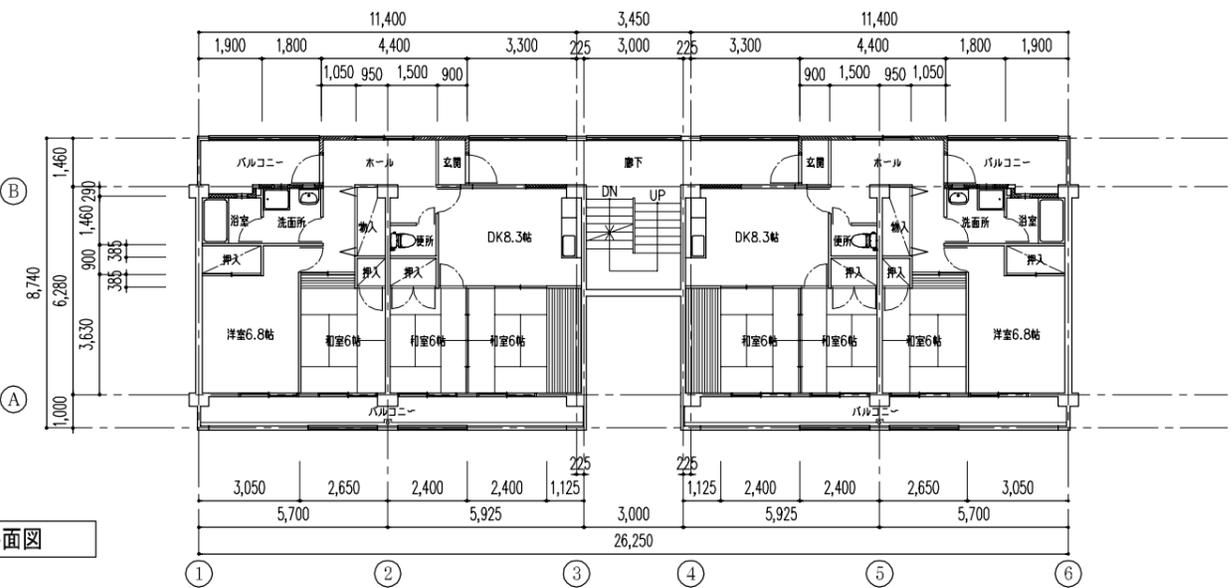
1階改修平面図



屋階改修平面図



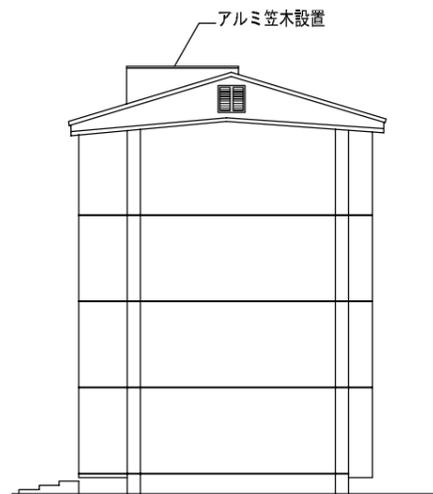
4階改修平面図



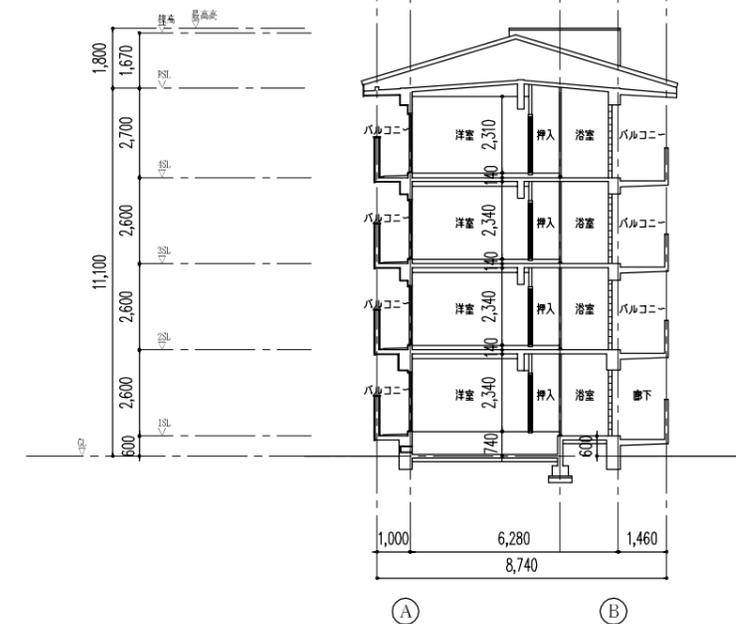


南側改修立面図

凡例・注記  
 [Hatched Box] - 補強補強を示す



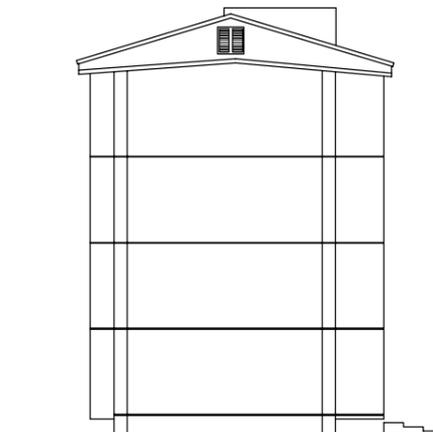
西側改修立面図



改修断面図

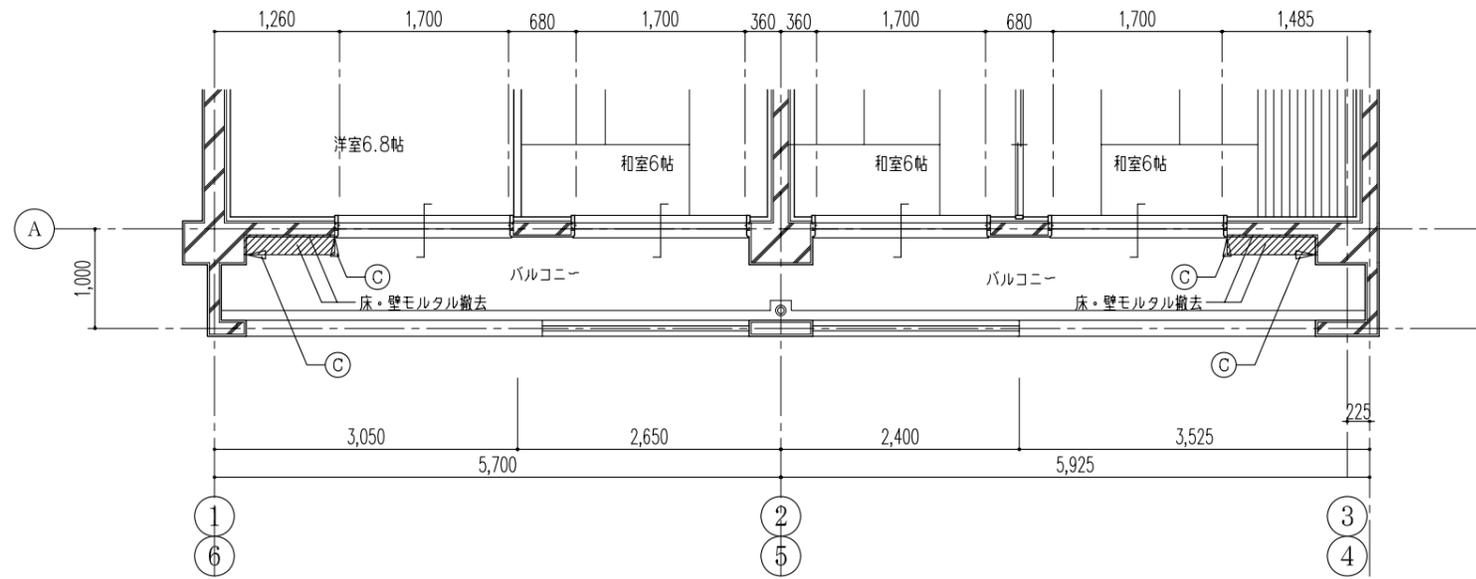


北側改修立面図

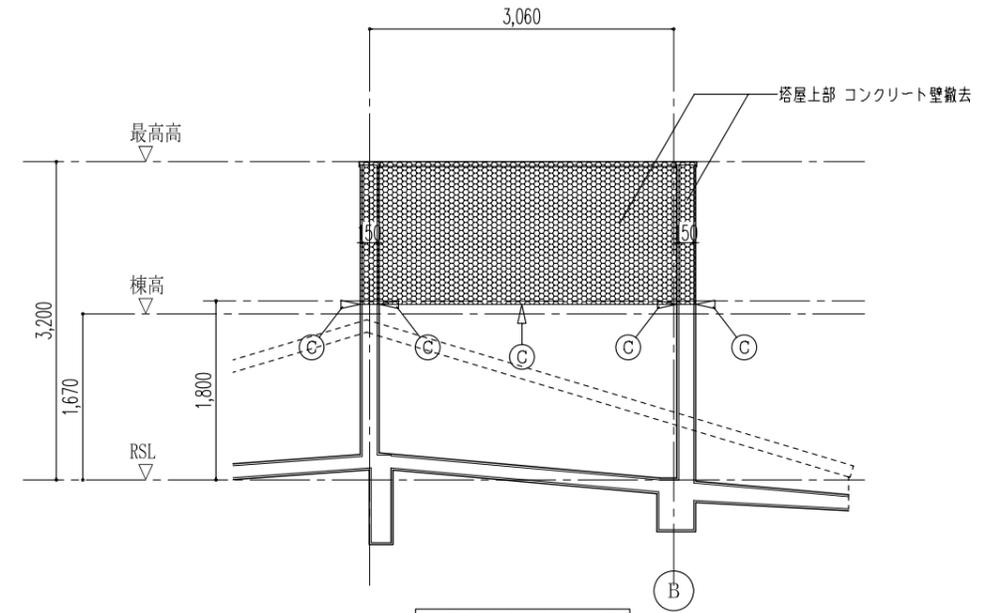


東側改修立面図

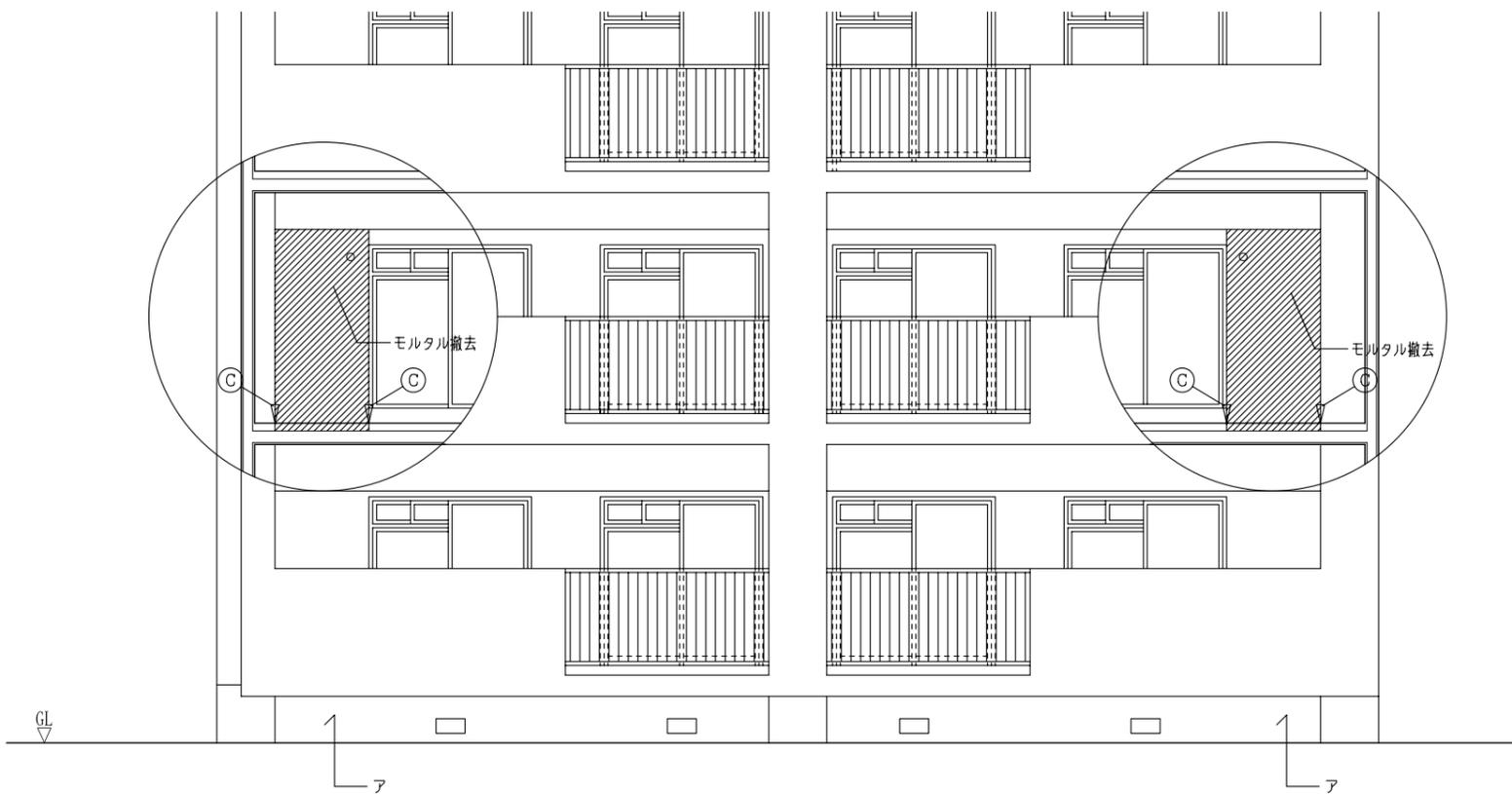




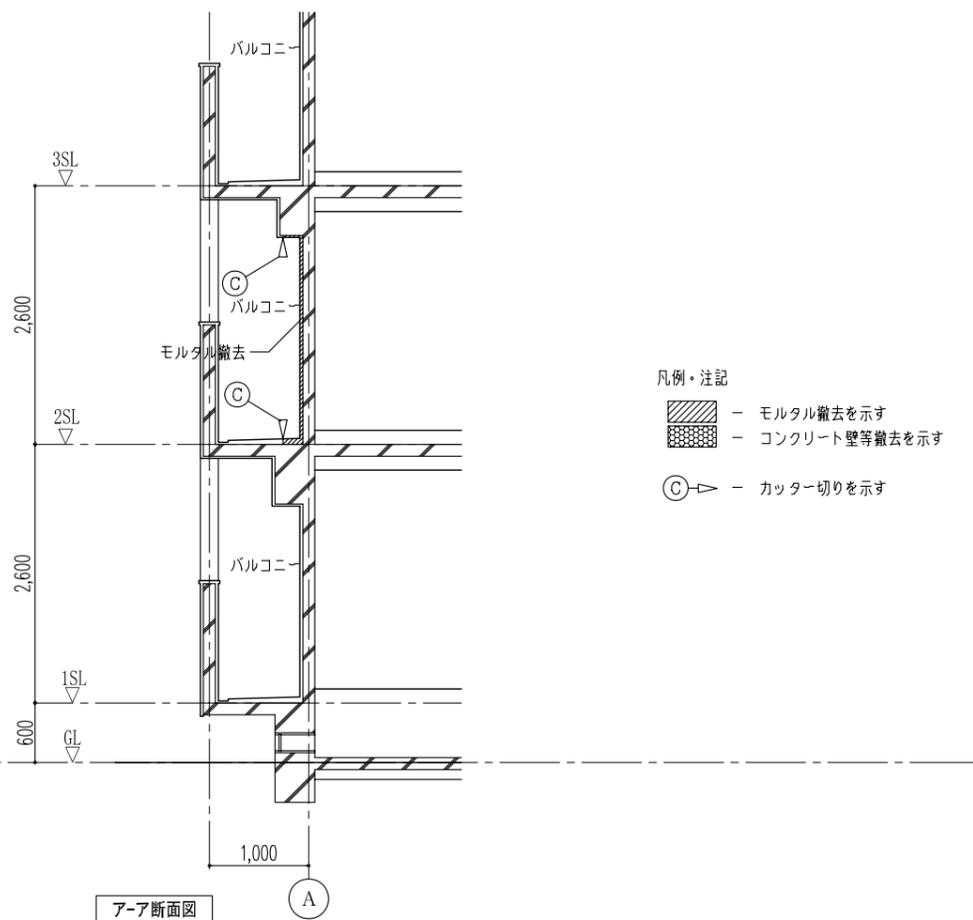
2階現況・撤去平面詳細図



塔屋現況・撤去断面詳細図

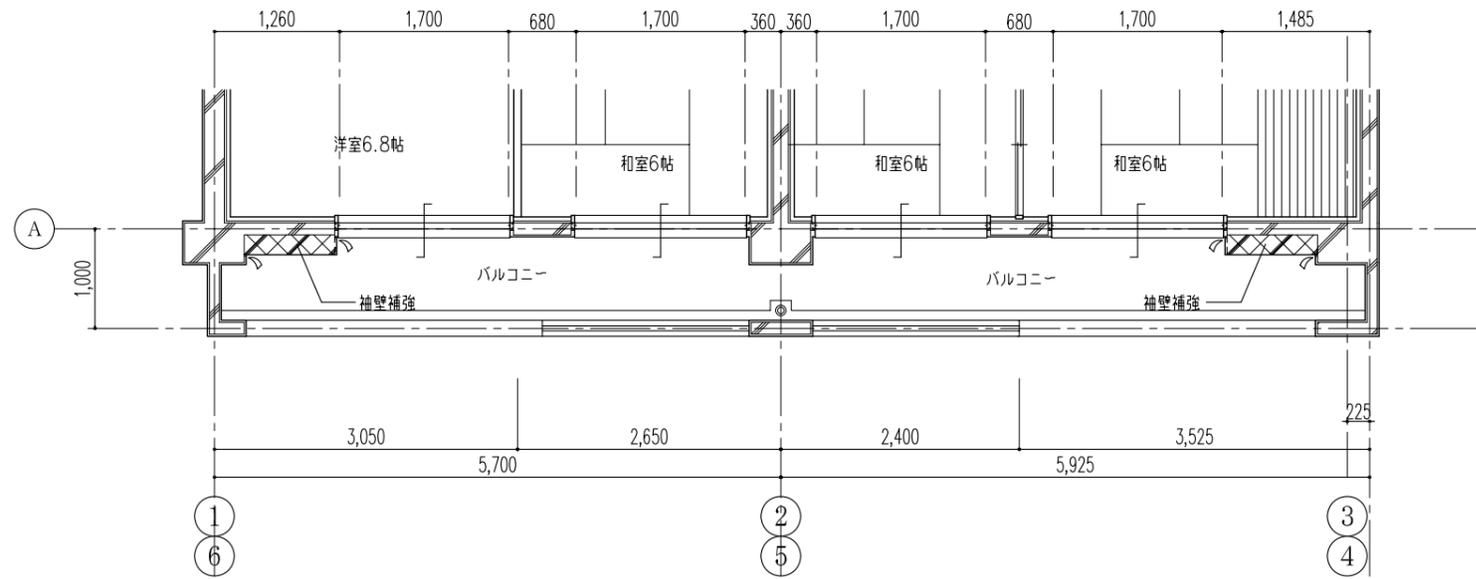


現況・撤去立面詳細図

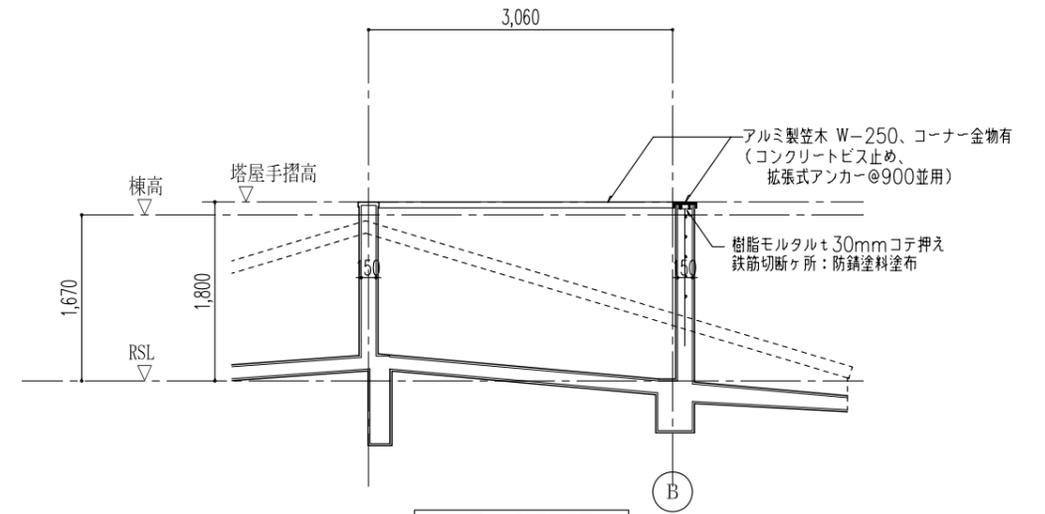


ア-ア断面図

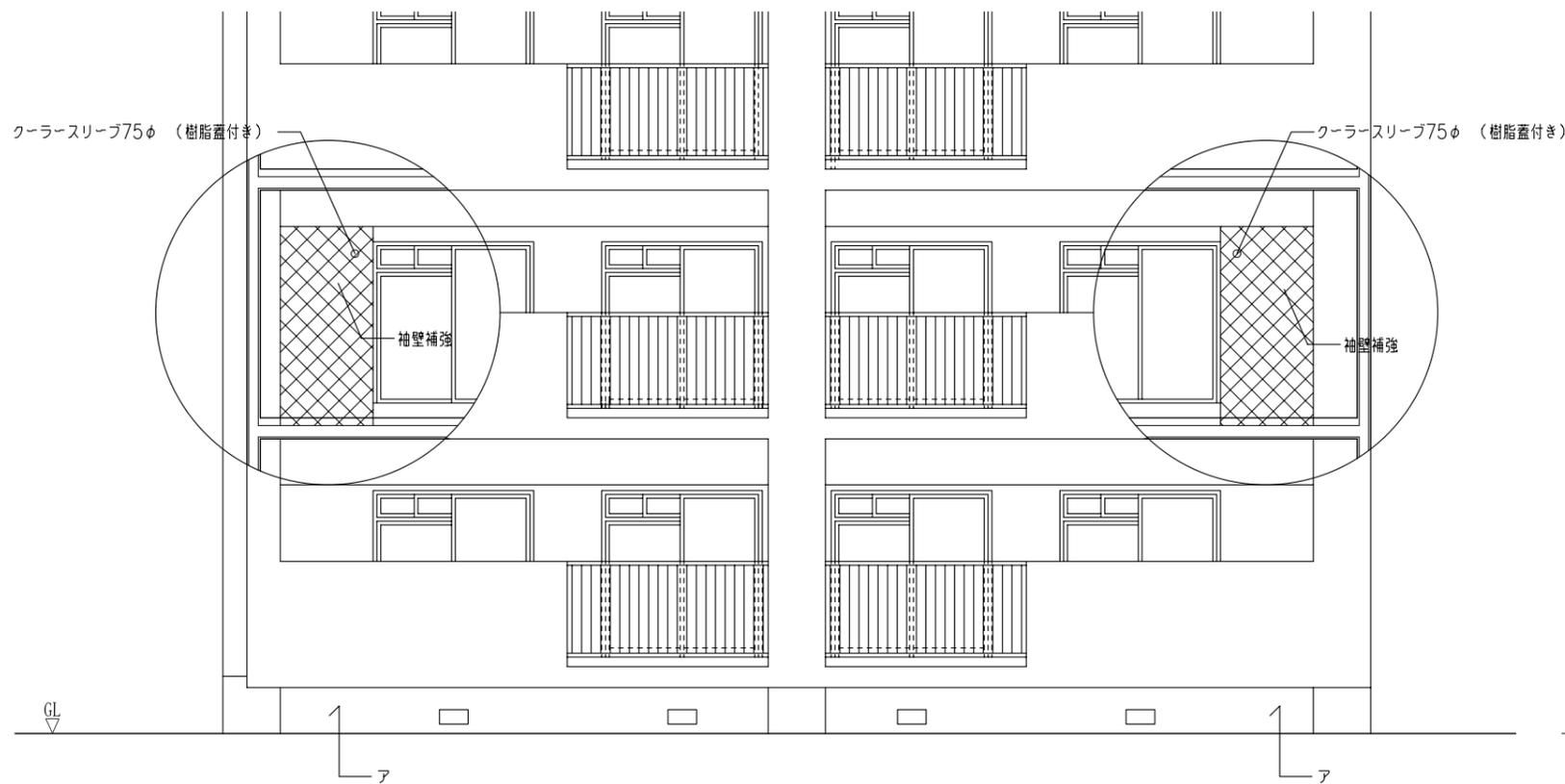




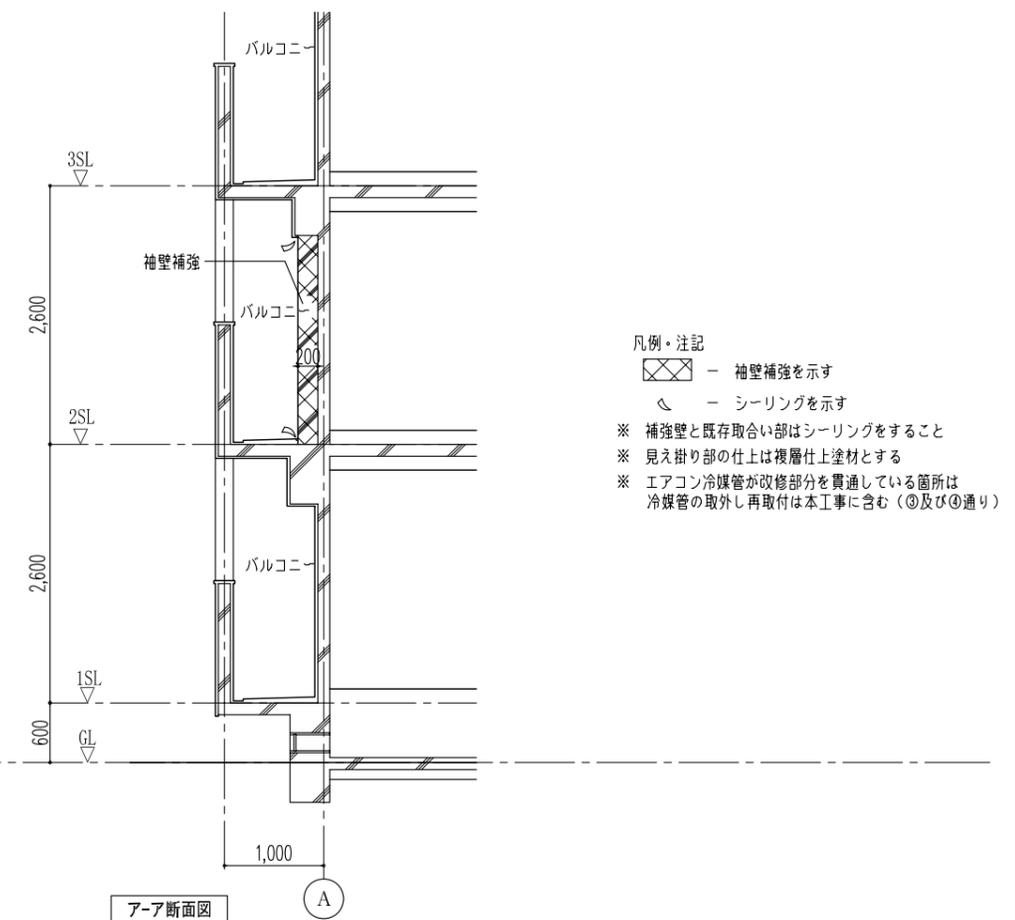
2階現況・撤去平面詳細図



塔屋改修断面詳細図



現況・撤去立面詳細図



ア-ア断面図

